

# 柏市健康増進計画

## 令和4年度 進捗状況報告書

令和5年9月

# 目 次

1	栄養・食生活	1
2	身体活動・運動	10
3	休養・こころの健康	20
4	喫煙	28
5	飲酒	35
6	歯・口腔の健康	39
7	糖尿病	49
8	循環器疾患	54
9	がん	60

表の見方	【事業名】	* : 事業名, 事業概要, 指標が全て再掲であるもの
		◇ : 事業名は再掲だが, 事業概要または指標が異なっているもの
	【ライフステージ】	○ : 該当
		△ : 一部該当

1. 栄養・食生活

(1)適正体重を維持するための知識の普及																						
①成人女性のやせ(20歳代)[BMI 18.5未満]及び成人男性の肥満[BMI 25.0以上]の減少																						
②児童・生徒の肥満[標準体重の+20%以上]の減少																						
③体重の変化を気にしている人(成人)の割合の増加																						
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性								
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期											
健康医療部 総務企画課	給食施設指導事業 (◇)	①個別指導(各施設を個別に巡回し、現地指導を実施。電話、来所による相談) ②集団指導(テーマに応じ職種別、施設種類別に研修会を開催) ③調査報告(各給食施設の運営・栄養管理状況を把握するため年2回調査実施)	他課 (学校保健課・保育運営課)  柏市保健所管内集団給食研究会	①なし ②なし	・肥満及びやせの割合の減少  ・啓発媒体活用増加	△	△	△	○	○	△	給食施設指導件数	令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症まん延に伴い個別巡回を縮小していたが、令和4年度から全施設を3年間で巡回する計画を立て、巡回を実施した。なお、コロナ禍前は2年間で全施設巡回していたが、近年新規施設が増加しているため、3年間で全施設の巡回できるよう計画を立てた。 特に事業所で前年度よりも肥満者の割合が増加している施設が多かったことから、事業所等、喫食者への直接的な指導が難しい施設に対して啓発媒体を配布した。啓発媒体の活用を通して個々に働きかけられるよう支援を行っていきたい。 また、コロナ禍で数年個別巡回を実施できてない施設、新規施設があるため、令和5年度も引き続き、個別巡回で施設の状況を聞き取り、肥満及びやせの割合の増加がある施設(前年度比が増加している施設)や、該当者が多い施設に対して、助言を行っていく。	各施設の肥満及びやせの割合変動を確認し、増加傾向にある施設や該当者が多い施設へ改善対策の指導・助言を行う。 また、課題に応じて研修会のテーマを選定する等、新たな改善案を検討し取り組んでいく。								
						H30						R元			R2	R3	R4	39件	47件	11件	5件	33件
						「肥満に該当する者の割合」の増加施設割合 (国基準:、H26年度比+5%以上)						5.6%										
						「やせに該当する者の割合」の増加施設割合 (国基準:、H26年度比+5%以上)						0.0%										
						※平成3年度からは厚労省より指導方針が示されなかったため、H26との比較は行わず前年度との比較で指導・助言を行っている。																
						「肥満に該当する者の割合」の増加施設割合 (各施設における前年度比増)						57.8%			55.4%	76.4%	22% (令和元年度比56.0%)	56.6%				
						「やせに該当する者の割合」の増加施設割合 (各施設における前年度比増)						48.6%			35.7%	54.7%	42.2%	54.0%				

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期				高齢期			
学校教育 部 学校教育 課  教育総 務部 学校給 食課	学校給食提 供事業 (小学校)	給食を生きた教材として、児童を対象に適切な摂取量や、成長に必要な栄養分を習得する。  また、養護教諭と連携し、咀嚼の重要性や栄養バランスの取れた食事、栄養と運動の両面を意識することで、健康な生活習慣を習得するための食育事業を行う。	学校歯科医	①なし ②なし	定期健康診断における肥満【標準体重の+20%以上】の人数の減少	○					給食実施回数(平均)					(学校教育課) 肥満度20%以上の割合がコロナ禍前の水準にまでは戻っていない。本年5月8日からは新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更し、コロナ禍以前の学校生活における対応が基本となったため、肥満度の改善が期待できる。痩せすぎの子どもの割合は横ばいであり、経済的な困窮が背景にある可能性があるため、関係機関との情報共有が必要である。 (学校給食課) コロナ禍で制限されていた体験やグループ学習形式の食に関する指導は徐々に回復し実践できた。健康的な食生活の実践には適切な量を食べることが必要であり、給食を教材とし自分の目で認識できる良い機会であった。しかし、実際の給食は、各自で調節してしまうなど成長に必要な量を認識し、実践できてはいない。引き続き、給食を活用した食に関する指導を行い、適正摂取及び健康な食生活を身に付けさせていく。	(学校給食課)令和5年度に策定する「学校における食育方針」を用いた食育を実施予定。これにより、養護教諭や関係機関と連携がとりやすくなるため、さらに給食を活用した食に関する指導を進める。
											H30	R元	R2	R3	R4		
											185回	181回	173回	182回	182回		
											対象者数						
											21,961人	22,063人	21,901人	21,976人	21,981人		
											肥満【標準体重の+20%以上】の人数						
											1,606人	1,696人	2,178人	1,791人	1,879人		
											肥満【標準体重の+20%以上】の割合						
											7.3%	7.6%	9.9%	8.1%	8.5%		
											やせ【標準体重の-20%以上】の人数						
											286人	268人	271人	363人	338人		
											やせ【標準体重の-20%以上】の割合						
1.3%	1.2%	1.2%	1.7%	1.5%													
学校教育 部 学校教育 課  教育総 務部 学校給 食課	学校給食提 供事業 (中学校)	給食を生きた教材として、生徒を対象に適切な摂取量の体得、成長に必要な栄養分を習得する。  また、養護教諭と連携し、咀嚼の重要性や栄養バランスの取れた食事、栄養と運動の両面を意識することで、健康な生活習慣を習得するための食育事業を行う。	学校歯科医	①なし ②なし	定期健康診断における肥満【標準体重の+20%以上】の人数の減少	△(中学生のみ)					給食実施回数(平均)					(学校教育課) 肥満度20%以上の割合がコロナ禍前の水準にまでは戻っていない。本年5月8日からは新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更し、コロナ禍以前の学校生活における対応が基本となったため、肥満度の改善が期待できる。痩せすぎの子どもの割合は横ばいであり、経済的な困窮が背景にある可能性があるため、関係機関との情報共有が必要である。 (学校給食課) コロナ禍で制限されていた体験やグループ学習形式の食に関する指導は徐々に回復し実践できた。健康的な食生活の実践には適切な量を食べることが必要であり、給食を教材とし自分の目で認識できる良い機会であった。しかし、実際の給食は、各自で調節してしまうなど成長に必要な量を認識し、実践できてはいない。引き続き、給食を活用した食に関する指導を行い、適正摂取及び健康な食生活を身に付けさせていく。	(学校給食課)令和5年度に策定する「学校における食育方針」を用いた食育を実施予定。これにより、養護教諭や関係機関と連携がとりやすくなるため、さらに給食を活用した食に関する指導を進める。
											H30	R元	R2	R3	R4		
											180回	177回	173回	179回	179回		
											対象者数						
											9,754人	9,735人	9,789人	10,135人	10,469人		
											肥満【標準体重の+20%以上】の人数						
											728人	846人	1,008人	967人	1,026人		
											肥満【標準体重の+20%以上】の割合						
											7.5%	8.7%	10.3%	9.5%	9.8%		
											やせ【標準体重の-20%以上】の人数						
											287人	264人	362人	372人	375人		
											やせ【標準体重の-20%以上】の割合						
2.9%	2.7%	3.7%	3.7%	3.6%													

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4						
健康医療部 健康政策課 地域包括支援課	柏フレイル 予防プロジェクト2025 (*)	「フレイル(虚弱)」という 概念を新たに取り入れ、 市民、関係団体、学識経 験者、市による「推進委 員会」を設置・運営しな がら、健康づくり事業の 効果的な運動と地域を 基盤とした市民主体の活 動を推進	医師会、歯科医 師会、薬剤師 会、東京大学、 ふるさと協議 会、社会福祉協 議会、民生委員 児童委員、柏市 民健康づくり推 進員、スポーツ 推進委員、東葛 北部栄養士会、 リハビリテーシ ョン連絡会、地域 包括支援セン ターなど	①第一生命、介 護事業者、イオ ン、JR東日本、 日立、フィットネ ス振興会、ダン ロップスポーツウ エルネス、吉田 記念テニス研修 センター、スマー トフィット100、ジ ェクサー・ジムフ ラット ②さんち家、野菜 レストラン SHONAN、わと か食堂	市民の意識・行 動変容(栄養、 身体活動、社会 参加の促進)																	
						推進委員会実施回数																

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医療部 地域包括支援課	フレイル予防事業 (◇)	主に高齢者に対するフレイル(介護予防)事業のうち、栄養をテーマとしたプログラムについて、管理栄養士等が講座を行う。	東葛北部在宅栄養士会、地域包括支援センターなど	①なし ②なし	市民の意識・行動変容(栄養の改善)							フレイル予防講座(栄養)の参加者数	令和4年度は感染対策に配慮しながら徐々に講座を行い、参加する市民が増えた結果となった。またフレイルチェックや、後期高齢者の質問票で、フレイル傾向がある方に対し、個別支援を実施した。また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取り組みとして、後期高齢者の健康診査受診者のフレイルと疾病の関係性等分析を行った。 令和5年度はフレイルチェック講座の中でも栄養の講座紹介を行い、市民の社会参加を促していく。ハイリスク者支援として、フレイルチェックによるフレイル傾向がある方に対する個別支援を継続していく。また光ヶ丘をモデル地域とし、フレイルチェックの実施や後期高齢者の質問票を活用し、地域サロン団体に対して積極的なフレイル予防を進めていく。	今後もフレイル予防の中での「栄養」をテーマとして講座を継続的に開催していく。ハイリスク者への集団支援(フレイルチェックや講座)、個別支援を継続する。				
						H30	R元	R2	R3	R4								
						介護予防センター主催の教室						44人			27人	41人	29人	—
						フレイル予防出前講座						199人			259人	26人	36人	134人
						地域包括支援センター主催の教室						366人			150人	33人	69人	105人
						フレイルハイリスク者への個別支援						—			—	16人	7人	18人
健康医療部 健康増進課	柏市国民健康保険 特定保健指導	国民健康保険の加入者を対象に行う、特定健康診査の結果より、メタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、3か月以上の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。  ※平成30年度から、国が示す「第3期特定健診・特定保健指導」に基づく、特定保健指導の支援期間の見直し(6ヶ月から3ヶ月)、初回面接の分割実施を導入し、集団健診にも活用している。	・柏市医師会 ・JA(ちば東葛、東葛ふたば、いちかわ) ・千葉県厚生農業共同組合連合会 ・千葉県民保健予防財団 ・千葉県国保連合会	①なし ②なし	生活習慣病の発症及び重症化の予防							特定保健指導実施率	①特定保健指導の実施率を高める取組 ・遠隔面談による保健指導 ・特定保健指導の電子申請による予約 ・積極的支援利用者へのインセンティブ付与 中断者の抑制ができるよう、達成度に合わせたインセンティブとし、郵送を開始した。 ・予約なしの保健指導、事前連絡なしの訪問指導を試行的に実施。 ②重症化予防事業における保健指導 糖尿病性腎症重症化予防プログラムの参加者を対象に、糖尿病看護認定看護師による保健指導を継続実施。  【保健指導の成果】 保健指導の実施率は令和3年度は前年度よりも5ポイント低下。そのため令和4年度から保健指導の予約をしなくても保健指導を受けられる日程を設け周知した。 また、事前連絡なしの訪問指導を開始した。 予約なしの保健指導の利用者数 6人 事前連絡なしの訪問指導者数 39人 保健指導を令和2年度受けた人の、翌年の検査値は令和3年度の健診結果で、体重や腹囲の改善に有意差がみられた。 また、BMI、中性脂肪、HDLコレステロール、HbA1Cについては、平均値で検査結果の改善を確認できている。  ●令和5年度の取り組み 試行的に行った、事前連絡なしの訪問指導を継続する。	「柏市国民健康保険3期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第4期特定健診等実施計画」の健康課題を踏まえた取組を実施する。				
						H30	R元	R2	R3	R4								
						29.0%	26.7%	23.3%	18.3%	11月以降確定								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
健康医療部 健康増進課	健康づくり相談	健康診査の結果により、生活習慣改善の必要なかたに、保健師・管理栄養士が個別相談を行い、個人の生活に即した具体的なアドバイスを行う。	—	①なし ②なし	健康診査の結果により、生活習慣改善の必要なかたに、保健師・管理栄養士が個別相談を行い、個人の生活に即した具体的なアドバイスを行う							相談者数 H30 R元 R2 R3 R4 42人 40人 45人 41人 40人	特定健康診査の結果、特定保健指導に該当しない方や、「75歳以上の健康診査」、「18歳から38歳までの健康診査」、「プレ特定健康診査」の受診後の事後フォローとして実施している。  ●令和5年度の取り組み 引き続き、健康診査の結果を元に対象者のニーズに応じた相談と支援を行うことで、生活習慣の改善による、生活習慣病の予防及び重症化予防の取組を推進していく。	「柏市国民健康保険3期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第4期特定健診等実施計画」の健康課題を踏まえた取組を実施する。
健康医療部 健康増進課	柏市健康診査(無保険者)(*)	40歳以上で、無保険の生活保護受給者を対象に、特定健診と同内容の健診を指定医療機関にて実施。対象者に個別通知、希望者は申し込み。	柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候群の予防、罹患している病状の安定や重症化予防への行動が取れるようにする。							受診者数 H30 R元 R2 R3 R4 321人 365人 394人 384人 440人	令和4年度の受診者数は、令和3年度から増加。令和3年度より、40～74歳は申し込み制から全数通知となり、受診率は14.5%であった。75歳以上は申込制を継続。185人(12.8%)が申込をし、126人(68.1%)が受診した。受診率向上のため、生活支援課ケースワーカーからの受診勧奨を継続実施していく。	生活支援課との協働により、受診率向上に努める。
健康医療部 健康増進課	へるすアップ相談	・平成29年度より実施 骨粗しょう症検査、柏市健康診査の結果、生活習慣改善の必要なかたに、保健師・管理栄養士が個別相談を行い、個人の生活に即した具体的なアドバイスを行う。	柏市医師会	①なし ②なし	健診等結果を踏まえて自らの生活習慣を振り返り、主体的に健康づくりに取り組むことができる							相談利用率(骨粗しょう症検査受診者) H30 R元 R2 R3 R4 7.0% 8.3% 4.5% 3.3% 4.1% 相談利用率(柏市健診受診者) 18.7% 17.8% 9.3% 2.0% 1.6%	令和4年度の利用率は、令和3年度から増加。来所相談と電話相談を併用し実施した。対象者へ送付していた利用勧奨通知については令和3年度は通知を中止したが、令和4年度より再度利用勧奨通知を再開した。利用率向上のため、勧奨方法について検討していく。	利用率向上のため、より効果的な利用勧奨の仕方及び、相談方法について検討していく。

(2) 野菜の摂取量の増加

④ 野菜摂取量の増加の割合(成人)

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医療部 総務企画課	給食施設指導事業 (◇)	①個別指導(各施設を個別に巡回し、現地指導を実施。電話、来所による相談) ②集団指導(テーマに応じ職種別、施設種類別に研修会を開催) ③調査報告(各給食施設の運営・栄養管理状況を把握するため年2回の調査を実施)	他課 (学校保健課・保育運営課)  柏市保健所管内集団給食研究会	①なし ②なし	・給食施設の食品構成における野菜摂取量の増加 ・野菜料理の残渣量の減少 ・ヘルシーメニューの提供増加 ・啓発媒体活用の増加	△	△	△	○	○	△	給食施設指導件数					令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症まん延に伴い個別巡回を縮小していたが、令和4年度から全施設を3年間で巡回する計画を立て、巡回を実施した。 令和5年度も個別巡回での食品構成や野菜摂取量についての聞き取りに力を入れ、必要に応じて助言していく。 また各施設での栄養指導状況を確認し、喫食者へ直接的な指導が難しい施設には野菜摂取に関する啓発媒体を配布する等、個々に働きかけられるよう支援を行う。	個別巡回で聞き取りをした野菜摂取量について考察し、新たな改善策や啓発案を検討する。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												39件	47件	11件	5件	33件		
健康医療部 地域保健課	啓発事業 (◇)	イベント等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課  柏市民健康づくり推進員  各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。	○	○	○	○	○	○	啓発実施者数(全数)					新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が制限される中ではあったが、一部地域で市民を対象とした地域健康講座や地域行事を再開することができた。また、推進員活動において今後の啓発事業に繋がるよう、内部研修を実施した。令和4年度より市民参加型の活動を再開し、令和5年度も同様に継続して実施している。	地域健康講座や健康教育等による啓発を実施し、地域における健康づくりを推進する。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												3,705人	3,014人	中止	66人	1,133人		
												啓発実施者数(栄養・食生活)						
1,375人	1,478人	中止	66人	1,133人														
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (◇)	イベント、健康教育の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	・庁内関係各課 ・各種団体及び企業関係	①モラージュ柏 第一生命保険 ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。	○	○	○	○	○	○	啓発実施者数(全数)					図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。 令和5年度より、出前講座の受付を再開。	出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。 また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												2,657人	4,973人	2,833人	3,882人	4,765人		
												啓発実施者数(栄養・食生活)						
												663人	946人	90人	533人	709人		
												依頼の健康教育参加者数(講師:栄養士)						
155人	19人	中止	中止	中止														



所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
健康医療部 健康増進課	栄養改善事業 (◇)	「野菜を食べよう柏協力店」事業	柏市保健所管内調理師会 庁内関係各課	①柏市内飲食店 ②なし	野菜を食べることのできる食の環境整備とする。							登録店舗数	市民の登録店利用を促すため、市民の向けのクリアファイル及びマップを作成した。健康増進月間にあわせた企画展示や商業施設等へ配付や掲示をし、事業の周知を図った。柏市食品衛生協会へ登録申請書等を配付し、勸奨を行った。結果11店舗登録店を増やすことができた。令和5年度からは、登録の利便性を高めるため電子申請による登録も可能とした。令和5年度も引き続き、市民へ事業内容の認知度を高めるため、周知用物品の作成やホームページ等を活用し、野菜を摂取しやすい環境整備を進めたい。また、利用者へのアンケート等、事業評価の方法を検討する。	引き続き周知用物品やホームページ等効果的な周知方法を検討・実施し、店舗数の増加を目指す。市内他部署とも連携することで、市民へ事業の認知度を上げ、店舗の利用率向上から野菜の摂取量増加につなげたい。					
												H30			R元	R2	R3	R4	25店舗
健康医療部 健康増進課	地域・職域 連携推進事業 (*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等 のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①第一生命保険株式会社、明治安田生命保険相互会社 ②十余二工業団地連絡協議会	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加							メール配信登録事業所数	令和4年度は例年通り、参集型で協議会を開催し、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また講習会を2年ぶりに開催し、「メンタルヘルスと健康経営」をテーマに50社63名が参加した。また協議会委員の意見を基に、「立ち上がり！座りすぎ改善計画」をテーマに、民間企業に講師を依頼してオンライン研修会を開催し、ライブ配信で10名が参加、アーカイブ配信で33回再生された。令和5年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また関係機関との共催による講習会やオンライン研修会については継続して開催し、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。そして健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康に関する実態調査を実施することで、市の健康課題を明確化し、今後の取組について計画していく。	健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康づくりに関する実態調査の結果を基に、関係機関と連携しながら計画的に事業を推進する。協議会では事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。					
												47社			60社	62社	61社	68社	講習会参加事業所数
経済産業部 農政課	食の安全・ 安心対策推進事業	農産物をサンプリングし、放射性物質検査を行う。また、検査結果についてホームページや広報などを通じて公表。	千葉県 一般財団法人 千葉県環境財団	①一般財団法人 千葉県環境財団	食の安全・安心を確保する。							検査品目数・検体数	消費者の不安を取り除き、安心して柏産の農産物を購入できるよう継続的に検査を実施していく。また、検査の頻度等に関しては、放射性物質の影響範囲を見極めながら費用対効果のバランスも考慮し実施していく。	検査や生産者への助言等を通じて、引き続き「食の安心・安全」を確保していく。また、適宜、情報発信することで風評被害の防止に取り組んでいく。					
																		H30	R元

(3)朝食を意識した、バランスのよい食生活の普及																		
⑤朝食の欠食率の減少																		
⑥食事のバランスのよい割合(成人)の増加																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医療部 地域保健課	母子保健食育	<p>&lt;ママパパサロン・栄養&gt;妊婦とそのパートナーを対象に、講話やグループワークを通じた妊娠期の食生活支援を行う。</p> <p>&lt;離乳食教室、母と子のつどい、8か月児相談、2歳の歯☆ピカランド、幼児健康診査&gt; 乳幼児期の保護者を対象に、講話や栄養相談を通じた食生活支援を行う。</p>	—	①なし ②なし	「バランスのとれた食事を規則正しくとる健康的な食習慣」を定着させるため、母子保健サービスを活用し、健康づくりの意識づけをする。	○				△		3歳児健康診査における主食・主菜・副菜をそろえた朝食の割合					<p>・令和4年度3歳児健康診査における主食・主菜・副菜をそろえた朝食の割合は大きな変化はなかった。</p> <p>・電子親子手帳やリーフレットにて朝食を意識したバランスの良い食事等発信を行う。昼食と夕食の状況を把握し、1日3食を通した望ましい食生活についても情報を発信していく。</p> <p>・令和5年度より離乳食教室や8か月児相談が再開。乳幼児期の食への関心が高まる時期に、各事業を通じて健康的な食習慣とバランスの良い食事について啓発していく。</p> <p>・令和5年度は柏市民健康づくり推進員との共働による、地域の母子保健の食育活動の推進を図る。</p>	・引き続き、各事業を通じて健康的な食習慣の啓発を推進する。
												H30	R元	R2	R3	R4		
健康医療部 健康増進課	栄養改善事業 (◇)	<p>栄養士業務連絡会(栄養改善・健康増進等の支援の推進を検討)</p> <p>野菜を食べよう柏協力店登録推進(健康づくりの取り組みを実施する飲食店の登録)</p> <p>栄養関係団体育成(栄養・健康づくりを担う関係団体の育成)</p> <p>講演会の企画(食育推進研修会、給食施設従事者研修会)</p>	<p>柏市保健所管内調理師会 柏市保健所管内集団給食研究会 柏市医師会</p>	①なし ②なし	関係課、関係団体との連携により食事のバランスのよい割合が増加	△	△	△	△	△	△	研修会実施回数					<p>・給食施設従事者研修会2回実施した(オンライン)。2回目は食育推進研修を兼ね、「減塩」をテーマに実施した。塩分摂取と高血圧の関係、減塩の献立作成の工夫について学び、参加者からは家庭や施設の献立作成に生かしたいとの感想が多かった。</p> <p>・食育推進研修会同上</p> <p>令和5年度も食生活改善の一助となる効果的なテーマを設定し、市民への周知・啓発につなげたい</p> <p>・栄養士業務連絡会2回実施(オンライン、参集)。市内各部署の重点取り組みや、課題、また連携できる事業を共有した。全体研修会では、「大規模災害時の食支援・JDA-DATの活動について」をテーマにオンデマンドで実施した。日本栄養士会による支援内容を知ることができた。令和5年度は、「柏市地域防災計画について」をテーマに、各課の役割と栄養士の活動、どう連携するかを確認予定。</p>	研修会の実施や関係部署、関係団体との連携を強化することで、全ての年代の方へ啓発を行えるように進める。自己研鑽を積むことで、市民への周知啓発内容を充実させていく。
												H30	R元	R2	R3	R4		

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性			
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期						
こども部 保育運営課	クッキング保育	保育園の園児が、栽培から収穫の過程を経験することで、食物への関心を高める。園児が栽培した作物と同じ野菜を利用して、5歳児がクッキングを行い、食べる。	各公立保育園の保育士、調理員と保育運営課栄養士との連携	①なし ②なし	自分たちで育てたものを、友達と一緒に調理し、食べる喜びを味わうことで、食に関心を持つ。	○						クッキング保育実施園数					
						H30	R元	R2	R3	R4	22園 (5歳児全 員参加)	22園 (5歳児全 員参加)	22園 (5歳児全 員参加)	22園 (5歳児 クラス)	22園 (5歳児 クラス)	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士、看護師、栄養士、調理員がそれぞれの役割を担い、創意工夫をしながら多職種が連携して実施できた。</li> <li>・園児が自分たちで野菜の栽培、収穫を行い、その後、調理することで、一連の流れを関連付けて取り組むことができた。</li> <li>・野菜の栽培、調理をすることにより、食に関してより一層興味や関心を抱けた。また、苦手なものも頑張っって食べようとする姿が見られた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <p>例年、5歳児クラスに特化して活動を行ってきたが、年齢問わず食育活動を行っていきけるよう、保育園と連携を図る。</p>	令和5年度の実績を踏まえ、引き続き実施する方向で進める。また、公立保育園の保育活動のうち、栄養士が関わることができる活動について精査し、食育計画の見直しを行う。
教育総務部 学校給食課 こども部 保育運営課 健康医療部 地域保健課	子ども健康プロジェクト	子ども健康プロジェクトの一環として、柏市の学校給食のメニューを学校給食クックパッドに掲載。パソコンや携帯からでもアクセスして、レシピを確認することができ、バリエーションに富んだ給食メニューを家庭で作ることができる。	学校給食課、保育運営課、地域保健課の栄養士が連携し掲載	①なし ②なし	簡単にバリエーションに富んだ人気のある給食メニューを周知することで、調理をする意欲を高める。	○	○	○	○	○		【学校給食】年間レシピの閲覧数(年度)と月平均閲覧数					
						H30	R元	R2	R3	R4	年間閲覧数 285,870件 月平均 23,823件	年間閲覧数 267,137件 月平均 22,261件	年間閲覧数 296,146件 月平均 24,679件	年間閲覧数 187,567件 月平均 17,052件	年間閲覧数 177,637件 月平均 14,803件	<p>(保育運営課)</p> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度から柏市ホームページ内の子育てサイトにおいて、柏市立保育園の給食ページを設け、給食献立や給食日より、人気レシピの掲載を開始した。</li> <li>・各家庭において、手軽に閲覧できる方法となっている。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食献立や給食日よりについては、定期的な更新ができるようにスケジュールを立て、発信していく。レシピに関しては、今まで掲載してきたものを整理した上で、発信していく。</li> </ul> <p>(学校給食課)</p> <p>令和4年度は給食で人気のある献立を家庭で作りやすい分量にして掲載したが、閲覧数が減少した。学校給食のメニューをクックパッドに掲載する市町村が増えたのが原因の一つと考えられる。そこで今年度は、鉄分やカルシウムが多く含まれる給食の献立など、特色のあるものを掲載する。</p>	掲載を継続する方向で進める。(保育運営課・学校給食課)
						【保育運営課】年間レシピの閲覧数											
						H30	R元	R2	R3	R4				3,514件	1,782件		

2. 身体活動・運動

(1)運動習慣の定着																	
①運動習慣者の割合の増加																	
②20～59歳のほとんど運動していない人の割合の減少																	
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性			
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期						
企画部 共生・交流推進 センター	各種スポーツ教室の開催	<JR野球教室> 市内中学校23校の中学2年生を対象に、JR東日本野球部の選手達をコーチに招き開催 <バスケットボール教室> 市内ミニバスケットボールチームに所属している小学生を対象にJX-ENEOSサンフラワーズの選手をコーチに招き開催 <ティーボール教室> 実施希望のあった市内小学校を対象にYBC柏の選手をコーチに招き開催 <ランニングクリニック> 市内在住・在勤・在学の方を対象に積水化学女子陸上競技部の選手をコーチに招き開催	YBC柏	①JR東日本野球部 ①JX-ENEOSサンフラワーズ ①積水化学女子陸上競技部 ①千葉ロッテマリーンズ ②なし	市のスポーツを活かしたまちづくりの推進  参加者の技術向上やホームタウンチームである柏市への愛着を深めること	○	○	○	○	○			学校訪問事業としてYBC柏と連携したTボール教室を5校(341名)で実施。また、市内中学校の女子バスケットボール部員を対象にバスケットボール教室をENEOSサンフラワーズと連携して実施(32名)。その他、ホームタウンチームが独自に実施しているスポーツ教室や学校訪問授業等の案内、周知に協力を行っている。 令和5年度も同様の事業実施を予定している。	引き続きホームタウンチームと連携し、幅広い年齢層を対象に各種スポーツ教室を開催することで、市民が柏市への愛着を深めるとともに、スポーツへの関心や参加機会を増進し、スポーツを活かしたまちづくりを推進する。			
						各スポーツ教室参加者合計					H30	R元			R2	R3	R4
						480人	398人	120人	833人	373人		※積水化学ランニングクリニック中止			※ティーボール教室のみ実施(2校)	ティーボール教室のみ実施(9校)	

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性			
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4					
健康医療部 健康政策課 地域包括支援課	柏フレイル 予防プロジェクト2025 (* )	「フレイル(虚弱)」という概念を新たに取り入れ、市民、関係団体、学識経験者、市による「推進委員会」を設置・運営しながら、健康づくり事業の効果的な運動と地域を基盤とした市民主体の活動を推進	医師会、歯科医師会、薬剤師会、東京大学、ふるさと協議会、社会福祉協議会、民生委員児童委員、柏市民健康づくり推進員、スポーツ推進委員、東葛北部栄養士会、リハビリテーション連絡会、地域包括支援センターなど	①第一生命、介護事業者、イオン、JR東日本、日立、フィットネス振興会、ダンロップスポーツウエルネス、吉田記念テニス研修センター、スマートフィット100、ジェクサー・ジムフラット ②さんち家、野菜レストラン SHONAN、わか食堂	市民の意識・行動変容(栄養、身体活動、社会参加の促進)							推進委員会実施回数					かしわフレイル予防ポイント制度へスポーツジム等のほかに飲食店も参加、対象事業の拡大を図った。一方で、ランジ体操やストレッチ、グラウンドゴルフなどを中心に、ポイントカードを持ってもらうことで、各団体でも活動への参加者がさらに増加した。 フレイル予防の啓発としては、市民活動フェスタや柏の葉ウォーキングフェスタなどでの各種イベント、イオンモール柏やモラージュ柏でポイントカード発行を行うとともに、啓発品を配付した。また、積極的に活動する団体に対する認定制度を創設し、ホームページのフレイル予防に関するページを認定団体の紹介を含めた形で整理し、専用サイトを構築した。 令和5年度は、専用サイトや新たに作成したパンフレットでフレイル予防に取り組む団体を紹介し、引き続き、市民が楽しみながら健康づくりに取り組む環境整備を図るとともに、フレイル予防の自分ごと化の推進を目標とする。	フレイル予防によるまちづくり実現のため、フレイル予防につながる多様な活動・場への参加を促す。 そのために、かしわフレイル予防ポイントの対象事業の拡大と、地域における市民主体の活動の促進を図り、フレイル予防の普及・啓発に努める。			
健康医療部 地域包括支援課	フレイル予防事業 (◇)	主に高齢者に対するフレイル(介護)予防事業のうち、身体活動をテーマとしたプログラムについて、リハビリテーション専門職、運動トレーナー等が講座を開催する。	柏市在宅リハビリテーション連絡会、柏市社会福祉協議会、柏市地域包括支援センターなど	①なし ②なし	市民の意識・行動変容(身体活動の促進)							フレイル予防講座(運動)の参加者数					令和4年度は感染対策に配慮しながら徐々に講座を行い、参加する市民が増えた結果となった。またフレイルチェックや、後期高齢者の質問票で、フレイル傾向がある方に対し、個別支援を実施した。また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取り組みとして、後期高齢者の健康診査受診者のフレイルと疾病の関係性等分析を行った。 令和5年度はフレイルチェック講座の中でも運動の講座紹介を行い、市民の社会参加を促していく。ハイリスク者支援として、フレイルチェックによるフレイル傾向がある方に対する個別支援を継続していく。また光ヶ丘をモデル地域とし、フレイルチェックの実施や後期高齢者の質問票を活用し、地域サロン団体に対して積極的なフレイル予防を進めていく。	今後もフレイル予防の中での「運動」をテーマとして講座を継続的に開催していく。 ハイリスク者への集団支援(フレイルチェックや講座)、個別支援を継続する。			

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医療部 健康増進課	ウォーキング推進事業 (*)	身近な運動である「歩くこと」が好きな市民が増え、主体的・積極的な健康づくりが進められるよう、ウォーキングパスポートの活用促進を展開する。 市民が歩きやすい環境をつくるために、ウォーキングマップの活用促進を展開する。	市民ウォーキング団体 千葉県ウォーキング協会 我孫子市	①UDCK ②なし	・歩くことが好きな市民が増える  ・市民が運動を始めるきっかけとなる	△	○	○	○	○	○	ウォーキングパスポート発行数					ウォーキングパスポートについては、市民の申請者数の増加に伴い、40～60代の利用率の増加も見られた。 若い世代の利用率が低いことが課題となっているため、令和5年度も継続して若い世代を含めた幅広い世代が歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールを検討し、具体化に向けた取り組みを進めていく。 UDCK主体の健康まちづくり部会では、令和2年度に設置したウォーカブルサインの評価、健康に関するアプリの実施・評価を行った。令和5年度以降も市の立場でまちづくりの観点からも健康推進を行う。	日常的な身体活動量の増加に向けて、「歩数」を意識するような働きかけ、環境整備を行う。若い世代を含めた幅広い世代に、歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールの具体化に向けた取り組みを進める。 現在実施している健康相談等で運動勧奨の一環として提案していく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												2,036冊	2,323冊	2,256冊	2,139冊	2,124冊		
												ウォーキングパスポート申請数						
48人	71人	72人	150人	208人														

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
健康医療部 地域保健課	地域ウォーキング	<p>&lt;地域ウォーキング&gt; 柏市民健康づくり推進員が主催し、各地域で住民同士の仲間づくりとウォーキングをはじめのきっかけづくりを図る</p> <p>柏市民健康づくり推進員が主催するウォーキング以外の運動講座</p>	<p>庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員</p> <p>各種団体及び企業関係</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>・市民が運動を始めるきっかけとなる</p> <p>・市民の運動時間が増える</p>							実施状況	<p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症に係る行動制限が緩和されつつあった中、市民参集型の活動も再開できてきたところ。令和5年度は、健康増進課とも連携しながら、地域での活動を継続していく予定。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症流行以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発、地域ウォーキングを実施し、地域における健康づくりを推進する。</p>
						H30	R元	R2	R3	R4	地域ウォーキング実施回数			
						12回	11回	中止	中止	7回	地域ウォーキング参加者数			
						153人	177人	中止	中止	79人	地域健康(ウォーキング以外)講座実施回数			
						11回	9回	中止	2回	3回	地域健康講座参加者数			
						461人	332人	中止	46人	106人				
健康医療部 地域保健課	啓発事業 (◇)	<p>地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。</p>	<p>庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員</p> <p>各種団体及び企業関係</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。</p>							依頼の健康教育実施者数(全数)	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が制限される中ではあったが、一部地域で市民を対象とした地域健康講座や地域行事を実施することができた。また、推進員活動において今後の啓発事業に繋がるよう、内部研修を実施した。令和5年度は市民参集型の活動を全面的に再開予定。</p>	<p>年間計画に基づいた啓発を実施する。</p>
						H30	R元	R2	R3	R4				
						758人	651人	中止	37人	1,133人				
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (*)	<p>イベント等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。</p>	<p>庁内関係各課 各種団体及び企業関係</p>	<p>①モラージュ柏 第一生命 ②なし</p>	<p>幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。</p>							啓発実施者数(全数)	<p>図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。令和5年度より、出前講座の受付を再開。</p>	<p>出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。</p>
						H30	R元	R2	R3	R4				
						2,657人	4,973人	2,833人	3,882人	4,765人	啓発実施者数(身体活動・運動)			
						717人	1,035人	373人	46人	409人	依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)			
						95人	38人	中止	中止	中止				
											※H30年度～健康増進課として計上			

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果 今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4							
健康医療部 健康増進課	地域・職域 連携推進事業(*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①第一生命保険株式会社、明治安田生命保険相互会社 ②十余二工業団地連絡協議会	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加							メール配信登録事業所数					令和4年度は例年通り、参集型で協議会を開催し、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また講習会を2年ぶりに開催し、「メンタルヘルスと健康経営」をテーマに50社63名が参加した。また協議会委員の意見を基に、「立ち上がり！座りすぎ改善計画」をテーマに、民間企業に講師を依頼してオンライン研修会を開催し、ライブ配信で10名が参加、アーカイブ配信で33回再生された。令和5年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また関係機関との共催による講習会やオンライン研修会については継続して開催し、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。そして健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康に関する実態調査を実施することで、市の健康課題を明確化し、今後の取組について計画していく。	健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康づくりに関する実態調査の結果を基に、関係機関と連携しながら計画的に事業を推進する。協議会では事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。					
																H30			R元	R2	R3	R4	
																			47社	60社	62社	61社	68社
																			講習会参加事業所数				
											52社	43社	中止	中止	50社								
市民生活部 スポーツ課	スポーツ施設予約システム	利用者の利便性を図る。	-	①なし ②スポーツ施設指定管理者(協栄・アシックスグループ)	スポーツ施設利用者数の増加							スポーツ施設利用者数					スポーツ施設予約システムの利用方法の周知、開催予定のスポーツ大会等の情報提供を行い、利用者の利便性を図った。	引き続き、利用者に利用方法の周知を行いながら、システム運用していく。					
																954,675人			855,625人	510,012人	775,033人	794,547人	
市民生活部 スポーツ課	学校体育施設開放	市民の地域におけるスポーツ活動の振興を図る。	市内各小中学校	①なし ②なし	利用者数の増加							学校体育施設利用者数					令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を適切に行うことで活動が増え、利用者数も回復傾向にある。令和5年度については、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け変更を踏まえ、利用しやすい環境を整えていく。	施設利用の状況としては、ほぼ空きがない程度まで利用団体登録が進んでおり、新規利用が難しい状況となっている。引き続き、多くの方に利用していただける事業として進めていく。					
																256,531人			218,479人	142,689人	146,339人	182,417人	



所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方角性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4		
市民生活部 スポーツ課	スポーツ推進委員活動 (* )	地域スポーツの推進役として、日ごろスポーツをしない人への動機づけなどを行い、スポーツ実施率の向上を図る。	柏市スポーツ推進委員協議会	①なし ②なし	参加者増加とスポーツ実施率の向上	○	○	○	○	○	○	スポーツ推進委員活動参加者数					令和4年度の対外的な活動は、感染症対策を適切に行うことで自粛していた活動を再開し、コロナ禍以前には及ばないが参加者数は回復傾向である。 令和5年度においては、令和4年度同様平常通りの活動を続けていくとともに、新型コロナウイルスの感染法上の位置付け変更に伴い、感染症対策にも改善を加えて事業を実施していく。	新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け変更を考慮した対策を継続しつつ、コロナ禍以前と同等数の方々に参加していただけるよう、幅広く参加者を募る工夫に取り組み、地域スポーツの推進に一層取り組む。
												スポーツ推進委員活動参加者数						
												3,122人	3,303人	中止	中止	2,673人		

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
市民生活部 スポーツ課	総合型地域 スポーツクラブの育成	クラブが活動する拠点の確保や運営のためのスタッフの確保、クラブを知ってもらうための広報活動を支援する。	市内総合型地域スポーツクラブ	①なし ②なし	市内クラブの 会員数の増加		○	○	○	○	○	市内クラブ会員数					令和2年度に新設された総合型地域スポーツクラブに令和3、4年度は補助金を交付し、設立後の支援を行った。既存のクラブ及び新設クラブともに、自律性の高い運営が求められる。	市内クラブの会員数の増加を支援する
												H30	R元	R2	R3	R4		
												1,221人	1,319人	1,227人	1,280人	1,310人		
市民生活部 スポーツ課	スポーツ教室・講習会	スポーツへの参加を促進するため、市主催の事業の他体育協会や指定管理者によるスポーツ教室を開催する。	柏市スポーツ協会 柏市スポーツ推進委員協議会 柏市スポーツ施設指定管理者	①なし ②なし	参加者の増加	○	○	○	○	○		スポーツ教室・講習会参加者数					市民参加体験型のスポーツイベントを開催し、スポーツを「する」きっかけづくりの場を提供している。また、指導者スキルアップ講習会では、(一社)柏市スポーツ協会に委託し、指導者を育成するための講習を計6回行った。指定管理者による自主事業では、「柏市スポーツ施設情報誌」やホームページ、広報などの媒体を使い周知を図っている。	市民がスポーツに親しむことができるよう、より多くの機会を提供していく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												4,388人	6,299人	1,580人	4,920人	6,358人		
市民生活部 スポーツ課	補助金の交付	スポーツ団体に対し補助金を交付することで、スポーツ事業の充実を図る。	柏市スポーツ協会 柏市女性スポーツ協会 スポーツ少年団	①なし ②なし	交付団体の 市民大会などの 参加者の増加				○	○	○	交付団体の市民大会などの参加者数					補助金の交付により、市民大会等の事業が開催され、交付団体の事業の充実が図られている。令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた大会が再開するなど、参加者数が回復傾向にある。	引き続き補助金を交付し、スポーツ事業の充実を図っていく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												42,284人	41,514人	14,016人	26,827人	39,717人		
市民生活部 スポーツ課	新春マラソン大会	市民を対象としたマラソン大会を開催する。	柏市スポーツ協会 柏市スポーツ推進委員協議会 他	①なし ②なし	参加者の増加		○	○	○	○	○	新春マラソン大会参加者数					平成29年度より、市外からの参加も可能とし、幅広い参加者の増員を図っている。3年ぶりに開催された令和4年度は、コロナ禍前に迫る参加者数が集まった。	子どもや親子の参加を促す広報活動を強化していく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												1,630人	1,732人	中止	中止	1,725人		
市民生活部 スポーツ課	手賀沼エコマラソン大会	市民の健康増進と街の活性化、及び手賀沼の浄化啓発を図る。	柏市スポーツ協会 柏市スポーツ推進委員協議会 他	①なし ②なし	参加者の増加				○	○	○	手賀沼エコマラソン大会参加者数					3年ぶりの開催となった令和4年度は、コロナ禍前には及ばずとも以前の8割ほどの参加者が集まった。	全国的にマラソン大会が増加しており、参加者の確保が課題、参加者の獲得に向けて今まで以上に工夫が必要であるため、実行委員会で検討していく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												9,080人	9,027人	中止	中止	7,482人		

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性											
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期														
学校教育 部 指導課	学校体育の 促進関連事 業	①「新体カテスト」の実施 市内小中学校児童生徒・ 握力等計8項目  ②「小学校体育授業サ ポート事業」 小学校10校・特別支援学 級を中心とした体育の授 業支援  ③「運動部活動指導者派 遣事業」 中学校運動部活動・専門 的な指導ができる運動 部活動指導者の派遣	千葉県小中学 校体育連盟柏 支部	①オークスフィ ットネス、セントラ ルススポーツ、柏 洋スイマーズ各 校で選出した部 活動指導者、契 約課により契約 されたサポート 事業担当者 ②なし	①児童生徒の 体力向上  ②支援を必要と する児童の運動 への意欲・技能 の向上  ③運動部活動 に加入している 生徒の意欲・技 能の向上							①全国平均を上回る項目  H30 R元 R2 R3 R4 40.9% 33.3% 中止 11.1% 20.8%  ②年間210時間の授業支援・ 実施校の満足度  — — — — —  ③中学校運動部活動指導者派遣数  各校 各校 各校 各校 各校 3~5人 0~5人 0~5人 0~8人 0~7人 計84人 計85人 計79人 計77人 計78人	体力向上に関する事業について は、令和3年度に引き続き、千葉県 小中学校体育連盟柏支部と連携 し、体づくり運動をテーマに研究を 行った。先進的に取り組んでいる学 校の実践事例について広く共有す ることができた。 新型コロナウイルスのため、学校の 活動が制限された令和2年度以 降、小中学校における体カテストの 点数は下降傾向が続いているた め、行動制限緩和後の状況に注視 しつつ、体力向上に向けた学校体 育における具体的取り組みにつ いて検討する。	体育の授業に関する 研究主題について、令 和5年度が最終年度と なるため、効果検証を 行い、令和6年度から 3カ年の計画を立て る。											
															運動事業利用者数						H30	R元	R2	R3	R4
																					560人	664人	481人	605人	691人
																					●令和5年度の取り組み 今後も継続し、特定健康診査等 で、生活習慣の改善を要し、運動習慣 の獲得等が望ましい方に対し、保健 事業利用助成事業の利用案内を 実施していく。				
健康医 療部 健康増 進課	保健事業利 用費助成事 業 (運動事業)	18歳以上の柏市国保被 保険者と後期高齢者医 療保険被保険者に対し、 申請に基づき保健事業 利用券を年間8枚交付(1 枚1,000円相当)。18歳 から38歳までの健康診 査事業、はり等施術事 業、お口のクリーニング 事業、運動事業に利用 できる。 運動事業は、運動習慣 の獲得及び継続を支援 するため、市の指定を受 けた運動施設で入会時 にかかる費用や運動指 導・運動教室の利用費用 を助成する。	柏市フィットネス 振興会 スポーツ課	①「運動事業」 指定施設 「運動教室」指 定施設  ②なし	被保険者の健 康の保持増進							平成29年度から保健事業利用助成 事業のメニューに、運動習慣の獲 得及び継続を支援し、健康の保持 増進を図ることを目的に運動事業を 追加している。 保健事業利用券申請者に対する運 動事業の利用者の割合は、令和2 年度に新型コロナウイルス感染症 の影響により1次的に減少はあった が、その後は増加している。	被保険者の健康の保 持増進を図るため、事 業を継続実施してい く。												
														運動事業利用者数						H30	R元	R2	R3	R4	
																				560人	664人	481人	605人	691人	
																				●令和5年度の取り組み 今後も継続し、特定健康診査等 で、生活習慣の改善を要し、運動習慣 の獲得等が望ましい方に対し、保健 事業利用助成事業の利用案内を 実施していく。					

(2)身体活動・運動に取り組みやしやすい環境づくり

③1日の歩行時間の増加

④地域活動やボランティア活動への参加意識向上

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性																				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4																						
健康医療部 地域保健課	啓発事業 (◇)	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。	○	○	○	○	○	○	啓発実施者数(全数)					新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が制限される中ではあったが、一部地域で市民を対象とした地域健康講座や地域行事を実施することができた。また、推進員活動において今後の啓発事業に繋がるよう、内部研修を実施した。令和5年度は市民参集型の活動を全面的に再開予定。	地域健康講座や健康教育等による啓発を実施し、地域における健康づくりを推進する。																				
						H30					R元					R2					R3					R4												
						3,705人					3,014人					中止					66人					1,133人												
						啓発実施者数(身体活動・運動)						3,705人							2,874人					中止					66人					1,133人				
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (*)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①第一生命 モラージュ柏 タカラッシュ 花王	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。	○	○		○	○	○	啓発実施者数(全数)					図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。令和5年度より、出前講座の受付を再開。	出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。																				
						H30					R元					R2					R3					R4												
						2,657人					4,973人					2,833人					3,882人					4,765人												
						啓発実施者数(身体活動・運動)						717人							1,035人					373人					46人					409人				
						依頼の健康教育参加者数(保健師)						95人							38人					中止					中止					中止				
						※H30年度～健康増進課として計上																																

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性			
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期						
健康医療部 健康増進課	ウォーキング推進事業 (*)	身近な運動である「歩くこと」が好きな市民が増え、主体的・積極的な健康づくりが進められるよう、ウォーキングパスポートの活用促進を展開する。市民が歩きやすい環境をつくるために、ウォーキングマップの活用促進を展開する。	市民ウォーキング団体 千葉県ウォーキング協会 我孫子市	①UDCK ②なし	・歩くことが好きな市民が増える ・市民が運動を始めるきっかけとなる	△	○	○	○	○	○	ウォーキングパスポート発行数 H30 R元 R2 R3 R4 2,036冊 2,323冊 2,256冊 2,139冊 2,124冊 ウォーキングパスポート申請数回 48人 71人 72人 150人 208人	ウォーキングパスポートについては、市民の申請者数の増加に伴い、40～60代の利用率の増加も見られた。若い世代の利用率が低いことが課題となっているため、令和5年度も継続して若い世代を含めた幅広い世代が歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールを検討し具体化に向けた取り組みを進めていく。UDCK主体の健康まちづくり部会では、令和2年度に設置したウォーカブルサインの評価、健康に関するアプリの実施・評価を行った。令和5年度以降も市の立場でまちづくりの観点からも健康推進を行う。	日常的な身体活動量の増加に向けて、「歩数」を意識するような働きかけ、環境整備を行う。若い世代を含めた幅広い世代に、歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールの具体化に向けた取り組みを進める。現在実施している健康相談等で運動勧奨の一環として提案していく。			
健康医療部 地域保健課	啓発事業 (*)	＜地域ウォーキング＞ 柏市民健康づくり推進員が主催し、各地域で住民同士の仲間づくりとウォーキングをはじめのきっかけづくりを図る  柏市民健康づくり推進員が主催するウォーキング以外の運動講座	柏市民健康づくり推進員	①なし ②なし	・市民が運動を始めるきっかけとなる ・市民の運動時間が増える							実施状況 H30 R元 R2 R3 R4 地域ウォーキング実施回数 12回 11回 中止 中止 7回 地域ウォーキング参加者数 153人 177人 中止 中止 79人 地域健康講座実施回数 11回 9回 中止 2回 3回 地域健康講座参加者数 461人 332人 中止 46人 106人	令和4年度は新型コロナウイルス感染症に係る行動制限が緩和されつつあった中、市民参加型の活動も再開できてきたところ。令和5年度は、健康増進課とも連携しながら、地域での活動を継続していく予定。	新型コロナウイルス感染症流行以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発、地域ウォーキングを実施し、地域における健康づくりを推進する。			
市民生活部 スポーツ課	スポーツ推進委員活動 (*)	地域スポーツの推進役として、日ごろスポーツをしない人への動機づけなどを行い、スポーツ実施率の向上を図る。	柏市スポーツ推進委員協議会	①なし ②なし	参加者増加と、スポーツ実施率の向上	○	○	○	○	○	○	スポーツ推進委員活動参加者数 H30 R元 R2 R3 R4 3,122人 3,303人 中止 中止 2,673人	令和4年度の対外的な活動は、感染症対策を適切に行うことで自粛していた活動を再開し、コロナ禍以前には及ばないが参加者数は回復傾向である。 令和5年度においては、令和4年度同様平常通りの活動を続けていくとともに、新型コロナの感染法上の位置付け変更に伴い、感染症対策にも改善を加えて事業を実施していく。	新型コロナの感染症法上の位置付け変更を考慮した対策を継続しつつ、コロナ禍以前と同数の方々に参加していただけるよう、幅広く参加者を募る工夫に取り組み、地域スポーツの推進に一層取り組む。			

### 3. 休養・こころの健康

(1)睡眠等による十分な休養の確保														
①睡眠による休養を十分にとれていない人の割合の減少														
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
健康医療部 保健予防課	こころの病気の啓発・普及活動 (*)	<p>〈出前講座〉 こころの健康について講座形式で、正しい知識の普及啓発を行う。</p> <p>〈市民講座〉 講演会により、精神疾患に関する正しい知識の普及啓発を行う。</p>	—	<p>①たんぼぼセンター（精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業） ②なし</p>	<p>より多くの市民が、こころの健康や精神疾患に関する理解を深め、正しい知識を学ぶことができる。</p>	出前講座参加者数						<p>【出前講座】19機関から依頼があり、WEBにも取り入れながら実施した。 【市民講座】新たに動画配信にて「精神科医師に聞いてみよう！～こころの病気について」を行い、幅広い市民への普及啓発を行った。</p> <p>引き続き、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業として、民間事業所と協働した普及啓発を行っていく。</p>	引き続き、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業の 中で、啓発の取り組みを充実していく。	
						H30	R元	R2	R3	R4				
						延777人	延652人	延178人	延30人	延1,391人				
						市民講座参加者数								
						53人	68人	中止	中止	動画配信				
(2)上手なストレス解消														
②ストレスを感じた人の割合の減少														
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
健康医療部 健康政策課 地域包括支援課	柏フレイル予防プロジェクト2025 (*)	<p>「フレイル(虚弱)」という概念を新たに取り入れ、市民、関係団体、学識経験者、市による「推進委員会」を設置・運営しながら、健康づくり事業の効果的な運動と地域を基盤とした市民主体の活動を推進</p>	<p>医師会、歯科医師会、薬剤師会、東京大学、ふるさと協議会、社会福祉協議会、民生委員児童委員、柏市民健康づくり推進員、スポーツ推進委員、東葛北部栄養士会、リハビリテーション連絡会、地域包括支援センターなど</p>	<p>①第一生命、介護事業者、イオン、JR東日本、日立、フィットネス振興会、ダンロップスポーツウエルネス、吉田記念テニス研修センター、スマートフィット100、ジューサー・ジムフラット ②さんち家、野菜レストラン SHONAN、わか食堂</p>	<p>市民の意識・行動変容(栄養、身体活動、社会参加の促進)</p>	推進委員会実施回数						<p>かしわフレイル予防ポイント制度へスポーツジム等のほかに飲食店も参加、対象事業の拡大を図った。一方で、ラジオ体操やストレッチ、グラウンドゴルフなどを中心に、ポイントカードを持ってもらうことで、各団体でも活動への参加者がさらに増加した。</p> <p>フレイル予防の啓発としては、市民活動フェスタや柏の葉ウォーキングフェスタなどでの各種イベント、イオンモール柏やモラージュ柏でポイントカード発行を行うとともに、啓発品を配付した。また、積極的に活動する団体に対する認定制度を創設し、ホームページのフレイル予防に関するページを認定団体の紹介を含めた形で整理し、専用サイトを構築した。</p> <p>令和5年度は、専用サイトや新たに作成したパンフレットでフレイル予防に取り組む団体を紹介し、引き続き、市民が楽しみながら健康づくりに取り組む環境整備を図るとともに、フレイル予防の自分ごと化の推進を目標とする。</p>	フレイル予防によるまちづくり実現のため、フレイル予防につながる多様な活動・場への参加を促す。 そのために、かしわフレイル予防ポイントの対象事業の拡大と、地域における市民主体の活動の促進を図り、フレイル予防の普及・啓発に努める。	
						H30	R元	R2	R3	R4				
						2回	1回	2回	2回	2回				

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4							
健康医療部 保健予防課	こころの病気の啓発・普及活動 (*)	<p>&lt;出前講座&gt; こころの健康について講座形式で、正しい知識の普及啓発を行う。</p> <p>&lt;市民講座&gt; 講演会により、精神疾患に関する正しい知識の普及啓発を行う。</p>	—	<p>①たんぼぼセンター（精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業） ②なし</p>	<p>より多くの市民が、こころの健康や精神疾患に関する正しい知識を学ぶことができる。</p>							出前講座参加者数					<p>【出前講座】19機関から依頼があり、WEBも取り入れながら実施した。</p> <p>【市民講座】新たに動画配信にて「精神科医師に聞いてみよう！～こころの病気について」を行い、幅広い市民への普及啓発を行った。</p> <p>引き続き、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業として、民間事業所と協働した普及啓発を行っていく。</p>	<p>引き続き、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業として、民間事業所と協働した普及啓発を行っていく。</p>					
												H30	R元	R2	R3	R4			延777人	延652人	延178人	延30人	延1,391人
												市民講座参加者数											
												53人	68人	中止	中止	動画配信							
健康医療部 保健予防課	本人・家族の相談・訪問支援等 (*)	<p>&lt;こころの健康相談&gt; 精神科嘱託医や職員によるこころの健康に関する相談。</p>	—	<p>①なし ②なし</p>	<p>精神的な問題を抱えた本人や家族を支援し、生活の質の向上を目指す。</p>							精神科医による相談数(回数)					<p>精神科嘱託医や職員によるこころの健康相談を実施し、本人や家族の相談に応じた。相談内容は、受診勧奨や病気の有無、本人への対応方法が多かった。複雑多様化する相談内容について、関係機関と連携しながら、相談支援の充実を図る。</p>	<p>複雑多様化する相談者のニーズに対応できるよう、引き続き関係機関と緊密に連携を図り対応していく。</p>					
												H30	R元	R2	R3	R4			46件	49件	43件	45件	52件
												職員による面談や訪問(延数)											
												1,549件	1,774件	1,507件	1,172件	1,263件			電話相談				
						7,529件	7,827件	7,768件	8,048件	7,883件													
子ども部 子育て支援課  生涯学習部 図書館  健康医療部 地域保健課	ブックスタート事業	<p>1歳6か月児健康診査を受診する親子に対し、市民ボランティアが読み聞かせ体験と絵本をお渡しする。</p>	柏市ふれあいブックスタートの会	<p>①なし ②なし</p>	<p>・絵本を通じ、親子のふれあいや保護者の心安らぐ時間をつくり、子どもの豊かな心を育む ・ことばかけやふれあいにより、愛される経験、守られている経験を積み重ねることが愛着形成につながり、乳幼児の健全な成長を図る。</p>							受取者数					<p>令和4年度は引き続き新型コロナウイルス感染予防のため、ボランティアの読み聞かせ等の活動を休止し、1歳6ヶ月健診の育児相談時に保健師から本を渡した。また、フォロー体制として読み聞かせの意義を伝える「ブックスタートアドバイスブックレット」を配布した。</p> <p>また、長期活動停止中のボランティアの意欲維持のため、1歳6ヶ月健診以外での読み聞かせ活動の場として、ラコルタ柏でおはなし会を開催した。</p> <p>令和5年度は、健診会場でのボランティアの読み聞かせを一部再開し、事業の更なる充実を目指す。</p>	<p>コロナ禍で退会・休会により減ってしまったボランティアの募集や、スキルアップのための研修等を行い、安定的な事業実施を目指す。</p>					
												H30	R元	R2	R3	R4			3,341人	3,284人	3,239人	3,230人	3,194人

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新 規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及 び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性																				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期																							
こども部 子育て 支援課 こども部 保育運 営課	地域子育て 支援拠点事 業	乳幼児及びその保護者 が相互の交流を行う場 所を開設し、子育てにつ いての相談、情報の提 供、助言その他の援助を 行う事業(児童福祉法第 6条の3第6項に規定さ れる事業)	—	①なし ②なし	子育て中の親子 の孤立や子育て に対する不安の 減少。	○						地域子育て支援拠点事業 延利用者数	<公立> 令和4年度は基本的な感染対策を取り ながら、予約制で実施することにより、市 民のニーズに応えた。 令和5年度は、状況を注視しつつ、予約 制で実施していく。 (保育運営課)  (子育て支援課) 令和4年度は、新型コロナウイルス感染予 防のため、各施設において予約制や人数 制限を行いながら実施したが、令和3年度 より利用者数は増え、コロナ禍でも、子育 て中の親子の交流等の場として機能した。 令和5年度は、感染症予防に注意しつつ、 予約制・人数制限を解除し、いつでも自由 に利用できるよう事業を実施していく。	<公立> 利用者数を増やして いけるよう市民にPRを し、従来通りの受け入 れを目指す。(保育運 営課)  (子育て支援課) 引き続き、乳幼児親子 が利用しやすい場とな るよう環境を整えると もに、事業の充実を図 る。																				
												<table border="1"> <tr> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> <tr> <td>123,248人</td> <td>122,973人</td> <td>80,354人</td> <td>98,602人</td> <td>107,346人</td> </tr> </table>			H30	R元	R2	R3	R4	123,248人	122,973人	80,354人	98,602人	107,346人										
H30	R元	R2	R3	R4																														
123,248人	122,973人	80,354人	98,602人	107,346人																														
生涯学 習部 中央公 民館	高齢者教育 事業 いきいきセミ ナー	高齢者が健康でより充 実した豊かな人生を送る ため地域の方々と交流 を深め、互いに学ぶこと により、良好な人間関係 を築き社会的能力を高 め、めまぐるしく移り 変わる社会に順応でき る能力を養う。	—	①なし ②なし	講座で学んだこ とを、生活の中 で取り入れても らい、健康で長 生きをする。	○						講座実施状況	高齢者の方が、地域の方々 と交流を深め互いに学ぶこと により、めまぐるしく移り 変わる社会に順応できる能 力を養うことを目的として 事業実施を展開した。 次年度以降も、良好な人間 関係を築き社会的能力を高 めることができるよう、講 座の充実を図る。	継続																				
												<table border="1"> <tr> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>8回</td> <td>4回</td> <td>7回</td> <td>9回</td> </tr> </table>			H30	R元	R2	R3	R4	8回	8回	4回	7回	9回										
H30	R元	R2	R3	R4																														
8回	8回	4回	7回	9回																														
												<table border="1"> <tr> <th colspan="5">実施回数</th> </tr> <tr> <td>8回</td> <td>8回</td> <td>4回</td> <td>7回</td> <td>9回</td> </tr> </table>	実施回数					8回	8回	4回	7回	9回												
実施回数																																		
8回	8回	4回	7回	9回																														
												<table border="1"> <tr> <th colspan="5">参加者数</th> </tr> <tr> <td>118人</td> <td>175人</td> <td>1,144人</td> <td>104人</td> <td>133人</td> </tr> </table>	参加者数					118人	175人	1,144人	104人	133人												
参加者数																																		
118人	175人	1,144人	104人	133人																														



(3)自殺予防対策																		
③自殺者数の減少																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
福祉部 福祉政策課	自殺予防対策事業	自殺者の減少を目的として、各関係機関との情報共有の場である自殺予防対策連絡会議を開催	庁内関係部局、医師会、民生委員児童委員協議会、柏警察署、千葉大学、柏商工会議所、柏労働基準監督署、柏市社会福祉協議会等	①なし ②なし	自殺者の減少	○	○	○	○	○	○	自殺者数					平成31年3月に策定した「柏市自殺予防対策計画」に基づき対策を推進している。  【令和4年度の取り組み】 ・柏市の自殺者数の状況について ・自殺者数の推移(男女比・年代別) ・柏市自殺対策計画の進捗状況(評価指標、主要事業の進捗確認、コロナ禍における庁内での課題、令和4年度に向けた取り組み) ・柏市の自殺者の状況に関する調査分析の結果報告(死亡小票等を用いた調査)  柏市自殺予防対策庁内連絡会議(11月) ・柏市の自殺者の状況に関する調査分析に関する保健所関係課との意見交換(保健予防課、健康増進課)  【今後の課題と考察・令和5年度の取り組み】 令和5年度には、第2次柏市自殺対策計画の策定を予定している。柏市自殺予防対策連絡会議及び柏市自殺予防対策庁内連携会議等を通じ、庁内外における連携をはかり、令和4年度に福祉政策課で実施した調査分析結果等も参考に、本市の状況に即した自殺予防対策の構築を行う。	コロナ禍において課題となった、子供や女性の自殺防止への取り組みや、国の大綱で示された重点取り組み事項を研究し、令和5年度に策定される第2次柏市自殺対策計画に基づき必要な事業の検討を行い、自殺者数の減少を目指す。
						H30	R元	R2	R3	R4								
						71人	64人	68人	63人	未発表								
						人口10万人対率					16.7	14.9	15.9	14.7	未発表			

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新 規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及 び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
福祉部 福祉総 務課	千葉県地域 自殺対策強 化事業費補 助金事業	普及啓発・相談事業・人 材育成・遺族支援・こころ の健康づくり・医療連携 の各事業を柱として、一 次予防(事前予防)・三 次予防(危機対応)・三 次予防(事後対応)の観 点から対策を実施	庁内関係部 局、医師会、 民生委員児童 委員協議会、 柏警察署、千 葉大学、柏商 工会議所、柏 労働基準監督 署、柏市社会 福祉協議会等	①なし ②なし	自殺者の減少	○	○	○	○	○	○	自殺者数					【令和4年度の取り組み】 ・インターネットゲートキーパー事業(R3~) →Googleで自殺に関する検索をした方に相 談窓口を表示、相談につなげた。 ・居場所づくりに関するモデル事業(R3~) →自殺予防対策コーディネーターを配置し、 孤立から自殺へと進まないための居場所の調 査や、地域の資源をまとめたリーフレット作成 →児童生徒の保護者に向けたリーフレットの作 成。児童生徒課の協力のもと、柏市内の公 立学校に配架。 →支援者向けゲートキーパー研修開催 ・無料対面談事業 →相談者数は数年間増加傾向にある。 ・ゲートキーパー養成研修 →一般市民向け、子供をもつ保護者向け、 支援者向けなど、テーマをもった講座を開催。 ・認知行動療法サポーター養成講座 →2回開催。身近にある不安への対処法に ついて、認知行動療法に基づく講座を開催。 ・自死遺族支援事業 →わかちあいの会や公開講演会を開催。  【今後の課題と考察・令和5年度の取り組み】 相談事業の件数や、ゲートキーパー研修事 業等への参加者が増加傾向にあり、悩みを持 つ方が増加していることが伺える。これらの事 業について継続実施するとともに、相談窓口 や居場所の周知促進を行うべく、リーフレット やカード等の作成・配架を進める。 また、令和5年度には、第2次柏市自殺対策 計画の策定を予定している。柏市自殺予防対 策連絡会議及び柏市自殺予防対策庁内連携 会議等を通じ、庁内外における連携をはかり、 令和4年度に福祉政策課で実施した調査分析 結果等も参考に、本市の状況に即した自殺予 防対策の構築を行う。	既存事業については概 ね継続実施予定だが、 令和5年度より、千葉 県地域自殺対策強化 事業費補助金の交付 要綱(交付上限額)に変 更があった。  コロナ禍において課題 となった、子供や女性 の自殺防止への取り組 みや、国の大綱で示さ れた重点取り組み事項 を研究し、令和5年度に 策定される第2次柏市 自殺対策計画に基づき 必要な事業の検討を行 い、自殺者数の減少を 目指す。	
						H30	R元	R2	R3	R4									
						71人	64人	68人	63人	未発表									
						人口10万人対率						16.7	14.9	15.9	14.7	未発表			

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性	
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期				高齢期
健康医療部保健予防課	本人・家族の相談・訪問支援等(*)	<こころの健康相談> 精神科嘱託医や職員によるこころの健康に関する相談。	—	①なし ②なし	精神的な問題を抱えた本人や家族を支援し、生活の質の向上を目指す。							精神科医による相談数(回数) H30 R元 R2 R3 R4 46件 49件 43件 45件 52件 職員による面談や訪問(延数) 1,549件 1,774件 1,507件 1,172件 1,263件 電話相談 7,529件 7,827件 7,768件 8,048件 7,883件	精神科嘱託医や職員によるこころの健康相談を実施し、本人や家族の相談に応じた。相談内容は、受診勧奨や病気の有無、本人への対応方法が多かった。複雑多様化する相談内容について、関係機関と連携しながら、相談支援の充実を図る。	複雑多様化する相談者のニーズに対応できるような、引き続き関係機関と緊密に連携を図り対応していく。
健康医療部地域保健課	啓発事業(*)	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。							依頼の健康教育実施者数(全数) H30 R元 R2 R3 R4 758人 651人 中止 37人 1,133人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が制限される中ではあったが、一部地域で市民を対象とした地域健康講座や地域行事を実施することができた。また、推進員活動において今後の啓発事業に繋がるよう、内部研修を実施した。令和5年度は市民参集型の活動を全面的に再開予定。	年間計画に基づいた啓発を実施する。
健康医療部地域保健課	妊娠届出受理と母子健康手帳交付事業(◇)	妊娠届出受理時、専門職が面談をして、こころの健康チェックを実施。気分の落ち込みや不安の有無を確認し、早期に支援を開始する。	庁内関係各課 産科医療機関等	①なし ②なし	妊娠や出産への不安が高い方や、うつ病の疑いのある方に対し、早期発見・早期支援ができる。							母子健康手帳交付状況 H30 R元 R2 R3 R4 3,213人 3,257人 3,115人 2,994人 3,107人 母子健康手帳交付時の専門職の面談率 100% 100% 100% 100% 100% 平成29年10月より、専門職による全数面接の体制を整えた	・妊娠届出受理時に専門職(保健師、助産師等)による全数面接を実施。書面上では把握出来ない気分の落ち込みや不安の有無等を面談にて確認。要支援家庭を早期に把握し、必要な支援に繋げた。 ・伴走型相談支援を含めた出産子育て応援給付金事業と連携し、切れ目のない支援体制の強化に取り組んだ。 ・産科医療機関や精神科医療機関と連携を図り、メンタルヘルスの問題を抱える妊産婦の支援を強化した。	・市内4か所の妊娠子育て相談センター(柏駅前、柏市役所、ウェルネス柏、沼南支所)にて、専門職(保健師、助産師等)による全数面接の継続。 ・周産期におけるメンタルヘルスに関して、関係機関との連携を強化していく。
健康医療部地域保健課	乳児家庭全戸訪問事業	市内の乳児がいる全家庭を訪問。生後3か月までに保健師・助産師が新生児訪問を実施し、育児支援チェックリスト・産後うつの早期発見のスクリーニング指標(EPDS)・赤ちゃんへの気持ち質問票(ボンディング)を用いて、育児ストレスが高いと思われる方への訪問等の継続支援を実施。	庁内関係各課 医療機関等(産科、小児科、精神科等)	①なし ②なし	育児ストレスが高いと思われる方や、医療の必要な産後うつ病の疑いのある方に対し、早期発見・早期支援ができる。							乳児家庭全戸訪問事業実施者数 H30 R元 R2 R3 R4 3,295人 3,182人 3,271人 3,132人 2,985人 乳児家庭全戸訪問事業面談率 95.3% 96.2% 95.6% 95.4% 96.9% 平成28年度より、妊産婦・新生児訪問とこころには赤ちゃん訪問を統合し、乳児家庭全戸訪問事業を開始した。平成29年4月～全数訪問としての取り組みを開始。※平成27年以前は新生児訪問として希望者のみに実施していた。	保健師、助産師による新生児訪問等において、産後うつ等こころの問題を抱える産婦を早期発見し、早期支援に繋げた。早期の訪問に向け、産後ケア等他事業との連携を強化し、出生連絡票提出方法に電子申請を追加実施した。令和5年度は、子育て応援給付金事業との連携も強化し、開始した電子申請の効果を検証する。	市民に対する全数訪問の周知や早期支援の強化継続。

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4							
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業(◇)	イベント等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。							啓発実施者数(全数)					図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。令和5年度より、出前講座の受付を再開。	出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。 また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。					
												H30	R元	R2	R3	R4			2,657人	4,973人	2,833人	3,882人	4,765人
						啓発実施者数(休養・こころの健康)						807人	-	68人	230人	155人							
健康医療部 健康増進課	地域・職域連携推進事業(*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①第一生命保険株式会社、明治安田生命保険相互会社 ②十余二工業団地連絡協議会	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加							メール配信登録事業所数					令和4年度は例年通り、参集型で協議会を開催し、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また講習会を2年ぶりに開催し、「メンタルヘルスと健康経営」をテーマに50社63名が参加した。また協議会委員の意見を基に、「立ち上がり！座りすぎ改善計画」をテーマに、民間企業に講師を依頼してオンライン研修会を開催し、ライブ配信で10名が参加、アーカイブ配信で33回再生された。令和5年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また関係機関との共催による講習会やオンライン研修会については継続して開催し、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。そして健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康に関する実態調査を実施することで、市の健康課題を明確化し、今後の取組について計画していく。	健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康づくりに関する実態調査の結果を基に、関係機関と連携しながら計画的に事業を推進する。協議会では事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。					
												H30	R元	R2	R3	R4			47社	60社	62社	61社	68社
						講習会参加事業所数						52社	43社	中止	中止	50社							

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新 規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及 び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
学校教育部 児童生徒課	不登校児童 生徒の支援 事業	市内の小中学校で、何らかの要因による不登校状態の児童生徒を対象に行う支援事業。本人の自立を促すとともに、学びの保障と居場所づくりを目指し、学習支援や訪問活動等を行っている。	-	①eboard ②なし	・不登校児童生徒の学習保障。 ・家庭と学校以外の居場所の確保。							きぼうの園・学習相談室入室入級者数					市内小中学生の不登校数は、ここ数年増加の一途である。きぼうの園や学習相談室は、不登校児童生徒にとって学習をしたり友達とかかわったりして、安心して過ごすことができる居場所としての機能を果たしている。また、家庭訪問事業は、引きこもりがちな児童生徒や保護者にとって、相談をしたり関わったりできる貴重な機会となっている。令和5年度は、きぼうの園と学習相談室を一括して「教育支援センター」とし、新たに「柏たなか」を新設。これまでよりも市北部地区での家庭訪問が充実されるようになる。今後も周知を図り、関係機関とまだつながりを持たずにいる児童生徒や保護者とかかわっていき、社会的な自立を目指すための支援を行っていく。	令和5年度より、「教育支援センター」を市内全域5カ所に設置した。設置目的・教育相談機能・学習支援など、より効果的な場所となるよう運営していく。また、SSWやSCとの連携を密にし、誰一人取り残さない支援を継続していく。					
												H30	R元	R2	R3	R4							
												81人	84人	99人	109人	137人			教育相談件数(電話)				
																			2,785件	3,248件	1,621件	1,731件	1,957件
																			教育相談件数(来室・訪問等)				
																			856件	1,273件	946件	780件	1,100件
																			教育相談件数(家庭訪問)				
																			574件	589件	555件	705件	682件

4. 喫煙

(1)喫煙・受動喫煙が及ぼす健康影響に関する知識の普及																				
①喫煙率の減少																				
②喫煙・受動喫煙が及ぼす健康影響に関する認識をもつ成人の割合の増加																				
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性							
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期				高齢期						
健康医 療部 健康増 進課	タバコ対策 (◇)	柏ノースモツ子作戦協 議会 柏ノースモツ子作戦出 張講座 柏ノースモツ子新聞の 作成・配付 乳幼児保護者向けリー フレット作成	柏市医師会 柏歯科医師会 柏市薬剤師会 タバコ問題を考え る会・千葉 柏商工会議所 柏市私立幼稚園 協会 柏市PTA連絡協 議会 柏市民健康づくり 推進員連絡協議 会 柏市民生委員児 童委員協議会 柏市小中学校校 長会 柏市小中学校養 護教諭会 地域保健課 保育運営課 環境サービス課 学校保健課 少年補導センター	①なし ②なし	禁煙をする市民 が増える 喫煙する市民が 減る 学校の周囲で 喫煙する大人が 減る タバコの害や受 動喫煙について 正しい認識を持 つ市民の増加							出張講座実施校数	令和4年度は、新型コロナウイルスの 感染状況を慎重に見極めながら、柏 ノースモツ子作戦協議会を2回開催し、 関係機関の相互連携及び情報共有の 再開を図った。平成21年度から14年 の協議会を通じて、喫煙率及び子ども の喫煙願望率の低下など設立の目的 を一定達成したため、たばこに限らず、 より包括的に子どもの健康を協議する 場の創設を健康医療部の枠を超えて 改めて検討するとして、協議会を発 展的に解消した。 出張講座については、学校薬剤師を中 心として8校において実施した(薬物乱 用防止教室等、「ノースモツ子」を冠さ ない講座を含めると28校で実施)。ま た、より多くの方にタバコに関する知識 の普及を図るため、令和元年から出張 講座の対象者を拡大(小・中学生のみ →子どもに関わる団体等)したことを周 知するチラシを柏ノースモツ子作戦協 議会委員の属する各団体へ配付した。 世界禁煙デーに合わせて、柏ノース モツ子新聞を、昨年度同様、小学校高 学年と、中学校全学年を対象に配付し た。さらに幼稚園、保育園及び小学2 年生の保護者向けに「サードハンド・ス モーク」に関するチラシの作成・配付を 実施した。また、タバコを吸い始める機 会の多い高校3年生へ、タバコの断り 方のロールプレイング形式のチラシを 市独自に作成し配布した。 令和5年度は、引続き出張講座の実 施、出張講座拡大・サードハンド・ス モークに関するチラシの配布及び柏 ノースモツ子新聞の配布等を継続的に 実施し、周知啓発に努めていく。	健康増進計画の目標値 達成に向け、協議会を 開催し相互連携及び情 報共有を図る。 また、利用者が増加傾 向にある新型タバコに関 するエビデンスに基づい た正しい知識の普及を 目指し啓発を強化して いく。						
															H30	R元	R2	R3	R4	
																12校	16校	5校	6校	8校
																サードハンド・スモークチラシ配布数				
																8,197枚	14,214枚	14,195枚	14,195枚	13,500枚
																柏ノースモツ子新聞配布数				
								—	21,016枚	22,461枚	23,846枚	23,603枚								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性								
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期											
健康医 療部 地域保 健課	啓発事業 (*)	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。  妊娠届出時に妊婦と家族に対して個別に周知を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり 推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。	○	○	○	○	○	○	健康教育・啓発実施者数(全数)					新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和5年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。	年間計画に基づいた啓発を実施する。				
						H30		R元		R2		R3		R4								
						758人		651人		中止		37人		1,133人								
						妊娠届出時の周知						1,161人		1,096人		1,070人			984人		924人	

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性							
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期										
健康医療部 健康増進課	健康づくり 普及啓発事業 (* )	イベント等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。							啓発実施者数(全数)	図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。令和5年度より、出前講座の受付を再開。	出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。 また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。							
						H30	R元	R2	R3	R4	2,657人	4,973人			中止	3,882人	4,765人				
						※H29年度～ 柏市民健康づくり推進員活動については別掲						啓発実施者数(喫煙)									
						1,047人	2,224人	中止	752人	719人	※H29年度～ 柏市民健康づくり推進員活動については別掲										
						依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)						95人			38人	中止	中止	中止	※H30年度～健康増進課として計上		
健康医療部 健康増進課	地域・職域 連携推進事業 (* )	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①第一生命保険株式会社、明治安田生命保険相互会社 ②十余二工業団地連絡協議会	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加							メール配信登録事業所数	令和4年度は例年通り、参集型で協議会を開催し、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また講習会を2年ぶりに開催し、「メンタルヘルスと健康経営」をテーマに50社63名が参加した。また協議会委員の意見を基に、「立ち上がれ！座りすぎ改善計画」をテーマに、民間企業に講師を依頼してオンライン研修会を開催し、ライブ配信で10名が参加、アーカイブ配信で33回再生された。 令和5年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また関係機関との共催による講習会やオンライン研修会については継続して開催し、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。そして健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康に関する実態調査を実施することで、市の健康課題を明確化し、今後の取組について計画していく。	健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康づくりに関する実態調査の結果を基に、関係機関と連携しながら計画的に事業を推進する。協議会では事務局の一方向的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。							
						H30	R元	R2	R3	R4	47社	60社			62社	61社	68社				
						講習会参加事業所数						52社			43社	中止	中止	50社			



(2) 受動喫煙の防止																		
③ 受動喫煙の機会を有する人の割合の減少																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医 療部 健康増 進課	タバコ対策 (◇) 受動喫煙対 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進法に基づく指導等及び同法の周知啓発</li> <li>柏ノースモツ子作戦協議会</li> <li>柏ノースモツ子作戦出張講座</li> <li>柏ノースモツ子新聞の作成・配付</li> <li>乳幼児保護者向けリーフレットの作成、配布</li> <li>受動喫煙防止キャンペーン</li> <li>おいでよ！カシワニ禁煙ステッカー等配付事業</li> </ul>	柏市医師会 柏歯科医師会 柏市薬剤師会 タバコ問題を考える会・千葉 柏商工会議所 柏市私立幼稚園協会 柏市PTA連絡協議会 柏市民健康づくり推進員連絡協議会 柏市民生委員児童委員協議会 柏市小中学校校長会 柏市小中学校養護教諭会 地域保健課 保育運営課 環境サービス課 学校保健課 少年補導センター 千葉県	①なし ②なし	受動喫煙による健康被害の減少	○	○	○	○	○	○	禁煙分煙ありがとう店登録店	令和4年度は、改正健康増進法(令和2年4月改正)に基づいて、引続き、喫煙可能店の届出対応及び事業所からの問い合わせや市民からの苦情対応を実施。世界禁煙デーには、市内の近隣センターや禁煙外来及び禁煙支援薬局を中心に禁煙を呼びかけるポスター約100枚の掲示依頼を行った。受動喫煙防止キャンペーンとしては、ティッシュ2400個を健康増進月間に配付、カイロ1800個を庁内各窓口にて配付することで周知を図った。また、令和3年度から「禁煙分煙ありがとう店」に代わり開始した。禁煙に積極的に取り組むお店を認証する「おいでよ！カシワニ禁煙ステッカー等配付事業」の浸透を図るため、市内飲食店約1800店へ登録勸奨チラシを配布した結果、ららぽーと柏の葉・アリオなどショッピングモール内のテナント含む約50店舗の追加登録があった。また、法に規定される受動喫煙防止の周知ポスターを市内全町会に対して、町会掲示板への掲出を依頼した。令和5年度は、市内飲食店や事業所等での受動喫煙防止の徹底及び定着を目的に引続き事業所及び市民の問い合わせに対応していくとともに世界禁煙デー及び受動喫煙防止キャンペーンに合わせ効果的な啓発を実施していく。	法改正の趣旨に基づき、適正な運用ができていない事業所への助言や指導を継続し、受動喫煙防止を推進していく。また、法に定められた配慮義務を周知していくことで、望まない受動喫煙を減少させていく。				
						H30	R元	R2	R3	R4	51店	50店			-	-	-	
						おいでよ！カシワニ禁煙ステッカー登録店(累計)						-			-	-	52店	107店
健康医 療部 地域保 健課	啓発事業 (◇)	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。  幼児健診にて保護者に対し、個別に周知を行う。	庁内関係各課  柏市民健康づくり推進員  各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。	○	○	○	○	○	○	依頼の健康教育実施者数(全数)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和5年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。	年間計画に基づいた啓発を実施する。				
						H30	R元	R2	R3	R4	758人	651人			中止	37人	1,133人	
						幼児健診での周知						2,255人			2,049人	2,219人	1,811人	1,796人

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性			
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期						
健康医 療部 健康増 進課	健康づくり 普及啓発事 業 (*)	イベント、健康教育の中 で運動、食、タバコ等健 康に関する啓発を実 施。一般市民を対象と し、幅広いテーマにつ いての啓発を行う。	庁内関係各課  各種団体及び企 業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフ ステージの市民を 対象にポピュ レーションア プローチするこ とで、健康に関す る気づきの場を 作る。							啓発実施者数(全数)	図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカ ドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で 実施されたイベントにて、ポスター掲示 やリーフレット等の配布による啓発活 動を実施した。令和4年度に健康づくり に関するパンフレットを作成した。 令和5年度より、出前講座の受付を再 開。	出前講座等の対面の研 修を通じた啓発教育の 実施。 また、効果的な啓発実 施のための情報収集 や、方法についての検 討を行い、実施につな げていく。			
											H30	R元			R2	R3	R4
											2,657人	4,973人			2,833人	3,882人	4,765人
											啓発実施者数(喫煙)						
											1,047人	2,224人			373人	752人	719人
											依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)						
											95人	38人			中止	中止	中止
					※H30年度～健康増進課として計上												
健康医 療部 健康増 進課	地域・職域 連携推進事 業(*)	柏地域・職域連携推進 協議会 事業所向けの健康情報 等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督 署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産 業保健センター 全国健康保険協 会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①第一生命保険 株式会社、明治 安田生命保険相 互会社 ②十余二工業団 地連絡協議会	働く世代の生活 習慣病予防とこ ころの健康づく りの推進  社員の健康づく りに積極的に取 り組む事業所の 増加							メール配信登録事業所数	令和4年度は例年通り、参集型で協議 会を開催し、各関係団体のかたと情報 共有・交換を実施することができた。ま た講習会を2年ぶりに開催し、「メン タルヘルスと健康経営」をテーマに50社 63名が参加した。また協議会委員の 意見を基に、「立ち上がれ！座りすぎ 改善計画」をテーマに、民間企業に講 師を依頼してオンライン研修会を開催 し、ライブ配信で10名が参加、アー カイブ配信で33回再生された。 令和5年度はハイブリッドでの協議会 の開催を予定しており、各委員の状 況に合わせた会議参加への環境整備 を進めていく。また関係機関との共催 による講習会やオンライン研修会につ いては継続して開催し、地域保健と職域 保健が連携を図りながら進めていく。そ して健診結果等のデータ分析及び市内 事業所への健康に関する実態調査を 実施することで、市の健康課題を明確 化し、今後の取組について計画してい く。	健診結果等のデータ分 析及び市内事業所への 健康づくりに関する実態 調査の結果を基に、関 係機関と連携しながら 計画的に事業を推進す る。協議会では事務局 の一方的な情報発信に ならないようお互いに ディスカッションを心掛 け、働く世代の生活習慣 病予防などの健康づく りを継続的に取り組ん でいく。			
											H30	R元			R2	R3	R4
											47社	60社			62社	61社	68社
											講習会参加事業所数						
											52社	43社			中止	中止	50社

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
環境部 環境サ ービス課	ぼい捨て等 防止事業	啓発看板・路面シール・ 横断幕の設置等の啓 発を行い、路上喫煙等 防止を推進し、ぼい捨 てごみを減少させる。	防災安全課	①なし ②なし	ぼい捨てごみ、 路上喫煙・歩行 喫煙者の減少。							通常の定期パトロールに加え、市民か らの苦情や情報提供に応じて、該当す る箇所の巡回を実施し、違反者の監 視・指導を行う等、滞在時間や巡回 コースの工夫を行い、粘り強い対応を 行っている。 他方では、啓発として、看板の設置、路 面シールの設置を行うとともに、柏駅南 口及び柏駅東口大型デジタルサイネー ジでの公共案内を継続し、より効果的 な啓発に取り組んでいる。 また、6・9・12・3月に柏駅及び柏の葉 キャンパス駅周辺における路上喫煙及 びぼい捨ての実態を把握するために散 乱ごみ実態調査を行うと共に、ぼい捨 て等防止のためのキャンペーンを行っ た。 令和5年度においては、引き続きキャ ンペーン等を効果的に実施していき、 関係課とも連携して啓発活動に取り組 む。	引き続き、たばこの吸い 殻等、ごみのぼい捨て に対する環境美化意識 向上に取り組んでいく。 「路上喫煙等防止ぼい 捨てごみ清掃委託」によ り、路上に捨てられるぼ い捨てごみの清掃、路 上喫煙防止の啓発活 動、指導業務等に取り 組んでおり、今後も継 続。 一方、ごみゼロ運動を はじめとする「地域清 掃」や「柏市美化サポ ーター制度」に対して市が 必要な支援を行うこと で、協働による美化活動 の促進を図り、市内の 環境美化の推進及び歩 行者等の安全の確保を 図り、快適な生活環境を 保持していく。					
						過料徴収件数								H30	R元	R2	R3	R4
						294件	372件	338件	365件	450件								

(3) 禁煙の支援

④ 禁煙達成率

⑤ 成人の禁煙外来における保険適用に関する認知率

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医 療部 健康増 進課	タバコ対策 (◇)	・禁煙外来実施医療機 関の周知 ・柏市国保特定健診受 診者へ啓発 ・禁煙支援薬局登録店 の周知	柏市医師会 保険年金課 柏市薬剤師会	①なし ②なし	・禁煙する市民 が増える  ・身近な医療機 関で保険による 禁煙指導が受 けられることが できる							禁煙外来及び禁煙支援薬局についてはHP上で公開するとともに禁煙支援 マップを作成し周知啓発を図っている。 禁煙支援薬局は、禁煙外来に受診す る前に、気軽に相談できる場として平 成28年より薬剤師会を通じた登録制 度として実施している。  柏市国保特定健診受験者に配付する 情報提供紙「かわ健康づくり通信」 に、市内禁煙外来一覧を掲載。 令和5年度も継続し、引き続き周知を行 う。	禁煙を希望している喫 煙者がスムーズに禁煙 できるような支援及び環 境整備を継続して実施 していく。					
						禁煙支援薬局登録店								H30	R元	R2	R3	R4
						33件	25件	25件	30件	23件								
市内禁煙外来実施医療機関数						31件	35件	38件	38件	39件								

(4) 未成年者の喫煙防止																			
⑥ 喫煙経験率																			
⑦ 喫煙願望率																			
⑧ 周囲で喫煙する大人の存在率																			
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
健康医療部 健康増進課	タバコ対策 (◇)	・柏ノースモツ子作戦出張講座実施 ・柏ノースモツ子新聞発行 ・小中学校タバコに関するアンケート ・乳幼児保護者向けリーフレットの作成、配布	・柏市薬剤師会 ・タバコ問題を考える会・千葉 ・市立小中学校 ・柏市私立幼稚園協会 ・学校保健課 ・保育運営課 ・地域保健課	①なし ②なし	・小中学生の喫煙経験率が減る ・小中学生の「タバコがかっこいいと思う」割合が減る ・タバコの害について正しく知ることができる ・タバコの害について正しく知る大人が増える ・禁煙する大人が増える	○	○	○	○	○	○	出張講座実施校数	令和元年から大人向けにも事業の拡大を図った出張講座については、新型コロナウイルス感染症の影響により申し込みはなかった。  小中学校向けの出張講座も同様に、市内では8校のみの実施にとどまった。小学生へは、サードハンド・スモークのチラシ及び柏ノースモツ子新聞の配布を継続。サードハンド・スモークチラシについては地域保健課と連携し、妊娠届出時や乳幼児健診の際の配布を行った。  また、タバコを吸い始める機会の多い高校3年生へ向け、タバコの断り方のロールプレイング形式のチラシを市独自に作成し配布した。	引続き、子どもたちの喫煙経験率及び願望率を下げるよう、協議会で連携しながら事業内容の充実を図っていく。					
						H30	R元	R2	R3	R4	12校	16校			5校	6校	8校		
						周囲で喫煙する大人の存在率(小学6年生)						-			-	55.6%	-	-	
						周囲で喫煙する大人の存在率(中学3年生)						-			-	50.9%	-	-	
						※市内全校アンケート(追跡調査につき3年に1度の実施)結果													
健康医療部 健康増進課	健康づくり 普及啓発事業 (*)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。	○	○	○				啓発実施者数(全数)	図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。令和5年度より、出前講座の受付を再開。  出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。 また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。						
						H30	R元	R2	R3	R4	2,657人	4,973人			2,833人	3,882人	4,765人		
						啓発実施者数(喫煙)						1,047人			2,224人	373人	752人	719人	
						依頼の健康教育参加者数(保健師)						95人			38人	中止	中止	中止	
						※H30年度～健康増進課として計上													

5. 飲酒

(1)過度の飲酒が及ぼす健康影響及び適度な飲酒に関する知識の普及																		
①「生活習慣病のリスクを高める飲酒量」の認識率の増加																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4		
健康医療部 地域保健課	啓発事業 (*)	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。							健康教育・啓発実施者数(全数)					新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和5年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。	年間計画に基づいた啓発を実施する。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												758人	651人	中止	37人	1,133人		
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (*)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。							啓発実施者数(全数)					図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。令和5年度より、出前講座の受付を再開。	出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												2,657人	4,973人	2,833人	3,882人	4,765人		
						啓発実施者数(飲酒)												
												-	400人	129人	53人	90人		
						依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)												
												H30	R元	R2	R3	R4		
						95人	38人	中止	中止	中止								
※H30年度～健康増進課として計上																		

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
健康医 療部 健康増 進課	地域・職域 連携推進事 業(*)	柏地域・職域連携推進協 議会 事業所向けの健康情報 等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監 督署 柏労働基準協 会 柏商工会議所 柏市沼南商工 会 代表企業(2社) 東葛北部地域 産業保健セン ター 全国健康保険 協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①第一生命保険 株式会社, 明治 安田生命保険相 互会社 ②十余二工業団 地連絡協議会	働く世代の生活 習慣病予防とこ ころの健康づく りの推進  社員の健康づく りに積極的に取 り組む事業所の 増加							メール配信登録事業所数					令和4年度は例年通り、参集型で協 議会を開催し、各関係団体のかたと 情報共有・交換を実施することがで きた。また講習会を2年ぶりに開催 し、「メンタルヘルスと健康経営」を テーマに50社63名が参加した。ま た協議会委員の意見を基に、「立ち 上がれ！座りすぎ改善計画」をテー マに、民間企業に講師を依頼してオ ンライン研修会を開催し、ライブ配 信で10名が参加、アーカイブ配信で3 回再生された。 令和5年度はハイブリッドでの協議 会の開催を予定しており、各委員の 状況に合わせた会議参加への環境 整備を進めていく。また関係機関と の共催による講習会やオンライン研 修会については継続して開催し、地 域保健と職域保健が連携を図りな がら進めていく。そして健診結果等 のデータ分析及び市内事業所への 健康に関する実態調査を実施する ことで、市の健康課題を明確化し、 今後の取組について計画していく。	健診結果等のデー タ分析及び市内事業 所への健康づくりに関 する実態調査の結果 を基に、関係機関と 連携しながら計画的 に事業を推進する。 協議会では事務局の 一方的な情報発信に ならないようお互いに ディスカッションを心 掛け、働く世代の生 活習慣病予防などの 健康づくりを継続的 に取り組んでいく。					
												H30	R元	R2	R3	R4							
												47社	60社	62社	61社	68社			講習会参加事業所数				
												52社	43社	中止	中止	50社							
									○	○	△												

(2)健康被害のリスクを高める飲酒習慣の防止																		
②毎日飲酒・多量飲酒する人の割合の減少																		
③妊婦の飲酒率の減少																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医療部 保健予防課	本人・家族 の相談・訪問 支援等 (◇)	〈アルコール相談〉 精神科医師や職員によるアルコールに関する相談。 〈アルコール家族教室〉 アルコール問題を抱える家族を対象に、講義やミーティングをとおして依存症の理解を図り、家族の健康度を高める。 〈酒害教室〉 アルコール依存者や家族を対象に、ミーティングを通して、酒害や自助グループの効果を学び、アルコール依存からの回復を図る。 〈HAPPYプログラム〉 アルコール減酒のためのプログラムを実施し、適正飲酒を目指す。	柏断酒新生会	①なし ②なし	より多くの市民がアルコール依存症や関連問題について学習し、依存症や家族の回復を図ることができる。							アルコール相談 精神科医による相談延数	精神科嘱託医や職員によるアルコール健康相談を実施し、本人や家族の相談に応じた。相談内容は、受診勧奨や病気の有無、本人への対応方法が多かった。相談内容について、関係機関と連携しながら、相談支援の充実を図る。	市民への効果的な普及啓発に取り組む。引き続き、関係機関と緊密に連携を図り、対応していく。				
						H30	R元	R2	R3	R4	14件	15件			7件	8件	12件	
						アルコール相談 職員による面談や訪問延数						135件			112件	104件	59件	77件
						アルコール家族教室 参加者延数						69人			78人	18人	38人	37人
						酒害教室参加者延数						183人			167人	45人	中止	中止
						HAPPYプログラム(減酒プログラム) 参加者延数						31人			23人	39人	21人	24人
						母子健康手帳交付状況						H30			R元	R2	R3	R4
												3,213人			3,257人	3,115人	2,994人	3,107人
健康医療部 地域保健課	妊娠届出受理と母子健康手帳交付事業 (◇)	妊娠届出受理時、専門職が面談をして、飲酒状況を確認。飲酒による健康リスクの啓発を行い、必要に応じ支援につないでいる。	市内関係各課 産科医療機関等	①なし ②なし	妊娠期から飲酒による健康リスクの啓発を行い、早期支援ができる。							妊娠届出時の妊婦の飲酒率	・妊娠届出受理時に専門職(保健師、助産師等)による全数面接を実施。妊娠届出時点での飲酒状況を確認し、飲酒による妊婦および胎児への健康リスクをリーフレット等を活用し、説明と啓発を実施。	・市内4か所の妊娠子育て相談センター(柏駅前、柏市役所、ウェルネス柏、沼南支所)にて、専門職(保健師、助産師等)による全数面接にて、飲酒による健康リスクの啓発を継続。				
						0.6%	0.2%	0.5%	0.4%	0.2%								

(3)未成年者の飲酒防止																				
(4)未成年者の飲酒経験率の減少																				
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性						
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期									
健康医 療部 健康増 進課	健康づくり普 及啓発事業 (* )	イベント、健康教育等 の中で運動、食、タバコ等健 康に関する啓発を実施。 一般市民を対象とし、幅 広いテーマについての啓 発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び 企業関係	①なし ②なし	幅広いライフ ステージの市民を 対象にポピュ レーションア プローチをす ること、健康に関 する気づきの場を 作る。							啓発実施者数(全数)					図書館、沼南支所ロビー、イトーヨー カドー柏店、新春マラソン及び吉田 邸で実施されたイベントにて、ポ スター掲示やリーフレット等の配布に よる啓発活動を実施した。令和4年 度に健康づくりに関するパンフレット を作成した。 令和5年度より、出前講座の受付を 再開。	出前講座等の対面の 研修を通じた啓発教 育の実施。 また、効果的な啓発 実施のための情報収 集や、方法について の検討を行い、実施 につなげていく。		
												H30	R元	R2	R3	R4				
												2,657人	4,973人	2,833人	3,882人	4,765人				
												啓発実施者数(飲酒)								
												-	400人	129人	53人	90人				
												依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)								
												H30	R元	R2	R3	R4				
												95人	38人	中止	中止	中止				
												※H30年度～健康増進課として計上								



6. 歯・口腔の健康

(1) 歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及																	
①3歳児でむし歯がない人の割合の増加																	
②12歳児のDMF歯数の減少																	
③歯肉炎を有する(歯周疾患要観察者を含む)人の割合の減少																	
④40歳で喪失歯のない人の割合の増加																	
⑤進行した歯肉炎(CPI指数3以上)を有する人の割合の減少																	
⑥60歳代における咀嚼く良好者の割合の増加																	
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期				高齢期			
健康医療部 地域保健課	子育て支援事業 (母と子のつどい、8か月児相談)	<p>&lt;母と子のつどい&gt; 妊婦、1歳6か月児くらいまでの乳幼児と保護者を対象に、市内20地域で実施</p> <p>&lt;8か月児相談&gt; 8か月児の乳児へ個別案内にて実施。各専門職がグループワークや個別相談を行う。</p> <p>内容: 歯・口腔に関するワンポイント啓発、歯科相談</p>	<母と子のつどい> 柏市民健康づくり推進員	①なし ②なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甘味食品や飲料を習慣化する児の割合の減少</li> <li>・歯みがき(仕上げがき)の習慣化</li> <li>・かかりつけ歯科医を持っている割合の増加</li> </ul>	○				△	つどい参加者数(歯科の回のみ)					<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止していた地域での啓発活動(「母と子のつどい」)を、9月より再開した。事前に柏市民健康づくり推進員食育部会研修において歯科保健の現状を伝え課題の共有を図った。</p> <p>・「8か月児相談」は年間を通じて中止であった。8か月は歯が生え始める時期であり保護者の関心も高い。啓発内容を動画で作成し二次元コード化したものを中止案内文に封入し全数に発送した。また「駅前すこやかプチルーム」での個別相談や「個別離乳食相談」での対応も行った。</p> <p>・令和5年度も乳幼児期からの「家族ぐるみのお口の健康」と「かかりつけ歯科の推進」について啓発する。</p>	乳幼児期から、家族ぐるみで口腔の健康に意識が持てる様情報提供する。
											H30	R元	R2	R3	R4		
											213人	86人	中止	中止	38人		
											8か月児相談参加者数						
											H30	R元	R2	R3	R4		
2,231人	2,085人	860人	531人	中止													
※H3より、母と子のつどいの実施主体が柏市民健康づくり推進員となり歯・口腔の健康については、地域からの依頼に応じて対応。																	
健康医療部 地域保健課	2歳の歯☆ピカランド及びフッ化物歯面塗布事業	<p>&lt;歯☆ピカ&gt; 2歳児の親子を対象に食生活を含むむし歯予防の啓発及び歯みがき指導</p> <p>&lt;フッ化物&gt; 2.6歳対象に医療機関にてフッ化物歯面塗布によるむし歯予防事業(無料受診券全対象者郵送)</p>	柏歯科医師会 柏市医師会	①なし ②なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物配合歯みがき剤の利用率の増加</li> <li>・かかりつけ歯科医を持つ者の増加</li> <li>・定期健診を受ける者の増加</li> </ul>	○				△	3歳児健診受診状況					<p>・「2歳の歯☆ピカランド」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため年間を通じて中止であった。当事業は開始から10年が経過し、事業評価を行った結果、事業目標の達成及び社会情勢の変化を鑑み令和4年度をもって終了の運びとなった。</p> <p>・フッ化物歯面塗布事業については、コロナ禍でも継続実施をしている。令和2年度は受診控えがあり受診率が下がったが、その後緩やかに回復している。令和4年度は受診率向上を目指し、受診しやすい環境整備の一環として受診券の内容を見直した。</p> <p>・令和5年度は3歳児健診においてフッ化物歯面塗布利用状況調査を実施し、受診率向上の更なる施策を検討していく。</p>	各母子保健事業と連携を図り、引き続き切れ目のない歯・口腔の健康づくり支援を行う。
											H30	R元	R2	R3	R4		
											対象者数						
											3,851人	3,743人	3,708人	3,295人	3,441人		
											歯科受診者数						
											3,453人	3,325人	3,463人	3,286人	3,432人		
											健歯者率						
86.9%	88.2%	87.2%	91.2%	92.2%													

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期			
健康医療部 地域保健課	母子歯科保健事業「歯っぴいかむカムかしわっ子作戦！！」	<p>&lt;地域における依頼の健康教育&gt; 子育て支援センター、地域サロンにおいて、「育児講座」として地域の乳幼児をもつ保護者を対象にむし歯予防の啓発及び歯みがき指導 &lt;幼稚園・保育園等での歯みがき指導&gt; 保育園、幼稚園の園児を対象に食生活を含むむし歯予防の啓発及び歯みがき指導 依頼に応じて、保護者へもむし歯予防の啓発を実施</p>	保育運営課 公立保育園 私立保育園 私立幼稚園 柏歯科医師会	①なし ②なし	・歯みがき(仕上げがき)の習慣化 ・かかりつけ歯科医を持つ者の増加 ・定期健診を受ける者の増加	○						<p>令和4年度は昨年度に引き続き、「駅前すこやかプチルーム」において予約制で個別相談を実施した。 令和5年度は学校歯科保健施策を推進していく予定であるため、就学前のこの時期についても同様に現状把握等を行い、令和6年度の取り組みにつなげていく。</p>	<p>持続的な健康づくりの環境整備を目指し、各取り組みを関係機関及び関係部署を連携・協力しながら推進していく。</p>
		<p>小学校、中学校の児童、生徒を対象に食生活を含むむし歯、歯周病予防の啓発及び歯みがき指導 依頼に応じて、保護者へもむし歯、歯周病予防の啓発を実施</p>	学校保健課 小学校 中学校 柏歯科医師会	①なし ②なし	・給食後の歯みがき習慣の徹底 ・食後の歯みがき習慣の徹底 ・フッ化物配合歯みがき剤の利用率の増加 ・定期健診を受ける者の増加	○						<p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面による指導が難しい状況であったため、歯や口の健康づくりに関する各習慣において、対象者に応じた内容のリーフレットを配付し、啓発活動に努めた。また、年度末に学校歯科保健施策をまとめた。 令和5年度は施策に基づいて、上半期は現状把握や課題抽出のための調査等を実施し、下半期は調査結果を関係機関及び関係部署と共有し、具体的な取り組みにつなげていく。</p>	<p>学校歯科保健において、健康格差の解消、持続的な健康づくりのための環境整備を目指し、各取り組みを関係機関及び関係部署と連携・協力しながら推進していく。</p>
健康医療部 地域保健課	啓発事業(◇)	イベント等の中で運動、食、タバコ、歯・口腔等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。							<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が制限される中ではあったが、一部地域で市民を対象とした地域健康講座や地域行事を再開することができた。また、推進員活動において今後の啓発事業に繋がるよう、内部研修を実施した。令和5年度は市民参集型の活動を全面的に再開予定。</p>	<p>地域健康講座や健康教育等による啓発を実施し、地域における健康づくりを推進する。</p>

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性						
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期									
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (◇)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。							啓発実施者数(全数)					図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。令和5年度より、出前講座の受付を再開。	効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討・実施につなげる。		
												H30	R元	R2	R3	R4				
												2,657人	4,973人	2,833人	3,882人	4,765人				
												啓発実施者数(歯・口腔の健康)								
												515人	944人	245人	551人	604人				
												依頼の健康教育参加者数(講師:歯科衛生士)								
												H30	R元	R2	R3	R4				
												45人	25人	中止	中止	中止				
												※H30年度～健康増進課として計上								
健康医療部 健康増進課	地域・職域連携推進事業(*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①第一生命保険株式会社、明治安田生命保険相互会社 ②十倉二工業団地連絡協議会	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加								メール配信登録事業所数					令和4年度は例年通り、参集型で協議会を開催し、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また講習会を2年ぶりに開催し、「メンタルヘルスと健康経営」をテーマに50社63名が参加した。また協議会委員の意見を基に、「立ち上がり！座りすぎ改善計画」をテーマに、民間企業に講師を依頼してオンライン研修会を開催し、ライブ配信で10名が参加、アーカイブ配信で33回再生された。 令和5年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また関係機関との共催による講習会やオンライン研修会については継続して開催し、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。そして健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康に関する実態調査を実施することで、市の健康課題を明確化し、今後の取組について計画していく。	健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康づくりに関する実態調査の結果を基に、関係機関と連携しながら計画的に事業を推進する。協議会では事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。	
												H30	R元	R2	R3	R4				
												47社	60社	62社	61社	68社				
												講習会参加事業所数								
												52社	43社	中止	中止	50社				

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性																														
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期																																	
学校教育 部 学校教育 課	健康診断事 業	<p>&lt;定期歯科健診&gt; 学校医による、全校児童 生徒のう歯・歯肉・歯列 等の健診</p> <p>&lt;歯みがき指導&gt; 保健所歯科衛生士によ る全小学校1年生を対象 とした歯みがき指導(学 校保健課で日程・人数調 整)</p>	学校歯科医  保健所	①なし ②なし	12歳児のDMF 歯数の減少  歯肉炎を有する 人の割合の減 少							<p>令和4年度の定期歯科健診につ いては、感染症対策を講じた上で通常 通り実施することができた。歯みがき 指導については、保健所歯科衛生士 による指導は令和4年度も中止して いたため実施していないが、歯垢の 染め出しを夏休みの課題として、各 家庭で磨けていなかった部分を確認 してもらった等、工夫して指導を再開し た学校が複数あった。 令和4年度の12歳児のDMF歯数 はやや減少した。 また、令和4年度に児童生徒対象 に実施したアンケート結果で、夜の歯 みがきは小中学生ともに9割以上が 必ずしているが、朝の歯みがきは小 学生で3割弱、中学生で2割強が毎 日はできていないことから、朝の歯み がき習慣の定着が課題であることが わかった。 令和5年度は、まずは給食後に歯 みがきできる環境を取り戻していくこ とが必要である。</p>	<p>柏歯科医師会が策 定した学校歯科医マ ニュアルに基づき、定 期健康診断を実施す る。 また、今後は、積極 的に歯科保健活動が 実施できるよう、学校 保健関係教職員の研 修会等で広く呼びか けていく。</p>																															
														<p>定期歯科健診状況</p> <table border="1"> <tr> <td>H30</td> <td>R元</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td colspan="5">受診者数</td> </tr> <tr> <td>3,171人</td> <td>3,219人</td> <td>3,302人</td> <td>3,402人</td> <td>3,400人</td> </tr> <tr> <td colspan="5">12歳児のDMF歯数</td> </tr> <tr> <td>0.89本</td> <td>0.63本</td> <td>0.69本</td> <td>0.67本</td> <td>0.63本</td> </tr> </table>					H30	R元	R2	R3	R4	受診者数					3,171人	3,219人	3,302人	3,402人	3,400人	12歳児のDMF歯数					0.89本	0.63本	0.69本	0.67本	0.63本	
H30	R元	R2	R3	R4																																								
受診者数																																												
3,171人	3,219人	3,302人	3,402人	3,400人																																								
12歳児のDMF歯数																																												
0.89本	0.63本	0.69本	0.67本	0.63本																																								
健康医 療部 健康増 進課	歯周病検診 事業 (◇)	対象者(満30、40、50、60 歳)に個人通知を行い、 委託医療機関にて歯周 ポケット測定等の歯周病 検診を実施する。	柏歯科医師 会	①なし ②なし	30・40歳におけ る喪失歯のない 人の割合増加  30・40歳の進行 した歯肉炎を有 する人の割合減 少							<p>昨年度に引き続きナッジ理論を活用 した受診券にしたところ、受診率を キープすることができている。当事業 をきっかけに歯科医院を受診した市 民についてはその歯科医院をかかり つけ歯科医とし、今後も定期的に受 診するよう今後もその重要性につい て柏歯科医師会と連携を図りなが ら、周知啓発を実施していく。</p>	<p>歯周病検診のシステ ム標準化に向けた問 診票の見直しに合わ せ、現在マニュアル に準じた検診に+αし た柏市バージョンで 実施しているが、本 事業をスクリーニング と位置づけ、国のマ ニュアルに準じた内 容で検診を簡素化し ていくことについて、 柏歯科医師会と協議 を重ね、決定してい く。</p>																															
														<p>喪失歯のない人の割合(30歳)</p> <table border="1"> <tr> <td>H30</td> <td>R元</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td>95.3%</td> <td>95.8%</td> <td>96.0%</td> <td>95.6%</td> <td>97.2%</td> </tr> <tr> <td colspan="5">喪失歯のない人の割合(40歳)</td> </tr> <tr> <td>91.7%</td> <td>91.3%</td> <td>91.7%</td> <td>92.0%</td> <td>92.6%</td> </tr> <tr> <td colspan="5">進行した歯肉炎(CPI指数3以上)を有する人の 割合(30歳)</td> </tr> <tr> <td>32.6%</td> <td>36.4%</td> <td>35.7%</td> <td>37.3%</td> <td>35.5%</td> </tr> <tr> <td colspan="5">進行した歯肉炎(CPI指数3以上)を有する人の 割合(40歳)</td> </tr> <tr> <td>38.6%</td> <td>44.0%</td> <td>42.1%</td> <td>38.0%</td> <td>40.4%</td> </tr> </table>					H30	R元	R2	R3	R4	95.3%	95.8%	96.0%	95.6%	97.2%	喪失歯のない人の割合(40歳)					91.7%	91.3%	91.7%	92.0%	92.6%	進行した歯肉炎(CPI指数3以上)を有する人の 割合(30歳)					32.6%
H30	R元	R2	R3	R4																																								
95.3%	95.8%	96.0%	95.6%	97.2%																																								
喪失歯のない人の割合(40歳)																																												
91.7%	91.3%	91.7%	92.0%	92.6%																																								
進行した歯肉炎(CPI指数3以上)を有する人の 割合(30歳)																																												
32.6%	36.4%	35.7%	37.3%	35.5%																																								
進行した歯肉炎(CPI指数3以上)を有する人の 割合(40歳)																																												
38.6%	44.0%	42.1%	38.0%	40.4%																																								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
健康医療部 地域医療推進課	訪問口腔衛生指導事業 補助金	訪問調査並びに口腔ケアの指導や一般市民への啓発事業、多職種連携事業等への訪問口腔衛生指導事業に対する補助金の交付	柏歯科医師会	①なし ②なし	<p>・在宅療養者が治療及び口腔ケアを受けることにより、口腔機能を維持し、生活の質の向上を図る。</p> <p>・市民が、在宅療養状態になっても、安心して歯科治療を受けることができる環境整備。</p>							訪問口腔衛生指導(訪問口腔ケア)を実施した方の口腔機能向上	<p>歯科衛生士の訪問調査(口腔診査)により、対象者の8割弱が治療につながった。</p> <p>また、口腔ケアや摂食嚥下リハビリ等の実施により、口腔内の疾病改善や誤嚥性肺炎の予防、会話や食欲等の生活の質の向上につながった。</p> <p>施設や事業者へ口腔ケアの講和は、コロナの影響で例年より減少したが、老人会やサロンへ介護予防の講和はアンケートで高評価を受けて、歯科へ関心が高まっている。</p> <p>多職種と連携して、フレイルハイリスク者の応援プランに関わり、介護予防に対する歯科の役割を啓発した。</p> <p>令和5年度も、本補助事業を継続し、市民の口腔機能の維持向上、生活の質の向上につなげていく。</p>	多職種連携の中で、訪問口腔衛生指導事業の推進を図る。					
															H30	R元	R2	R3	R4
																	80%	90%	82%

(2) 定期的な歯科健康診査の受診動向																		
⑦ 過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合(成人)の増加																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医療部 地域医療推進課	特殊歯科診療事業支援事業	一般的な診療が難しい障害児・者、高齢者等に診療を行う特殊歯科診療所の運営に対し補助金を交付	柏市医療公社 柏歯科医師会	①なし ②なし	一般診療が難しい方本人及び家族の負担軽減。生活の質向上	○	○	○	○	○	○	患者数					感染防止対策を徹底し診療を継続する中で、一般の歯科診療所では治療が困難な患者への歯科診療や摂食嚥下指導を実施している。コロナ禍ではあったが、令和2・3年度より徐々に患者数が増加し、コロナ前に戻りつつある。 令和5年度も、本補助事業を継続し、必要な方が歯科診療や指導を受けられる体制確保を図っていく。	必要な方が適切な医療を受けられる体制を確保していく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												4,233人	4,080人	3,139人	3,193人	3,402人		
健康医療部 健康増進課	歯周病検診事業(◇)	対象者(満30、40、50、60歳)に個人通知を行い、委託医療機関にて歯周ポケット測定等の歯周病検診を実施する。	柏歯科医師会	①なし ②なし	過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合増加	△	△	○	○	過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合(成人)					昨年度に引き続きナッジ理論を活用した受診券にしたところ、受診率をキープすることができている。当事業をきっかけに歯科医院を受診した市民についてはその歯科医院をかかりつけ歯科医とし、今後も定期的に受診するよう今後もその重要性について柏歯科医師会と連携を図りながら、周知啓発を実施していく。	歯周病検診マニュアルに準じた検診に+αした柏市バージョンで実施しているが、本事業をスクリーニングと位置づけ、国のマニュアルに準じた内容で検診を簡素化していくことについては柏市の歯科保健事業全体の見直し等を踏まえ、柏歯科医師会と協議を重ね、決定していく。		
										H30	R元	R2	R3	R4				
										全体								
										32.9%	34.3%	31.0%	29.5%	32.5%				
										30歳								
										30.2%	31.8%	25.7%	25.7%	30.2%				
										40歳								
										35.3%	37.7%	33.3%	30.6%	35.6%				
										50歳								
										35.6%	32.5%	29.1%	26.6%	28.7%				
60歳																		
28.9%	33.9%	36.6%	37.4%	35.4%														
健康医療部 健康増進課	かしわ歯科相談室(*)	歯・口腔の健康に関して、歯科医師・歯科衛生士が個別の相談に応じ、必要な指導及び助言を行う。	柏歯科医師会	①なし ②なし	歯・口腔の健康に関する不安の軽減	○	○	○	○	○	○	かしわ歯科相談室利用者数					関係課で実施している乳幼児対象の事業が中止されていることに伴い、例年より乳幼児の来所者数が増加した。歯科医師による口腔内診察と助言、歯科衛生士による歯みがき指導等に役割分担をし、実施することができた。 成年以降のかたについては治療内容の相談が多く、専門的な治療内容を理解できず、どう選択すればよいのかわからず、来所するケースが多くみられた。各歯科医院でのわかりやすい説明等が必要。	地域にある歯科医院での患者へのインフォームドコンセントについては柏歯科医師会を通して、その徹底に努めていただくよう協力を仰いでいく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												75人	60人	38人	65人	85人		

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果, 今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医 療部 健康増 進課	健康かむか む運動補助 金	柏歯科医師会が主催する 地域歯科保健医療啓 発の一環。 ・各種コンクール実施, 表彰 ・口腔がん検診 ・市民向け口腔啓発企画 等への補助事業	柏歯科医師 会 教育委員会	日本大学松戸学 部 北原学院歯科衛生 専門学校 東葛北部歯科技工 士愛 (株)グラクソ・スミス クリン・コンシュー マー・ヘルスケア ジャパン (株)松風 (株)ビーブランド (株)ケーオーデンタ ル モラージュ柏 イオンモール柏 こども図書館 あさひ通り商店会 ウラカン百年会	歯や口腔の健 康づくりに関心 を持ち, 主体的 に取り組む市民 が増える。	○	○	○	△	△	○	健康かむかむ運動参加者数					これまでの地域に出向き住民とふれ あいながらの啓発が難しい状況の中 で, WITHコロナを見据えた啓発活 動にシフトチェンジした活動の一環と して, 歯や口の健康づくりを身近に感 じられるような内容を作成し, 柏歯科 医師会の公式You Tubeを配信した。 また, ポピュレーションアプローチだ けでなく, ハイリスクアプローチとして 定時制高校への啓発活動も開始され した。	関係機関と連携を図 りながら, 各ライフ ステージにあった媒体 を活用し, 必要な情 報提供・発信を実施し ていく。
						H30		R元	R2	R3	R4							
						1,570人	4,078人	中止	中止	中止								

(3) 歯・口腔の健康づくりのための環境整備																			
⑧ 歯や口の状態に関する満足度(成人)																			
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
健康医療部 健康増進課	歯周病検診 事業 (◇)	対象者(満30, 40, 50, 60歳)に個人通知を行い、委託医療機関にて歯周ポケット測定等の歯周病検診を実施する。	柏歯科医師会	①なし ②なし	歯や口の状態に満足している人の割合増加							口腔内の満足度についてほぼ満足している人の割合	昨年度に引き続きナッジ理論を活用した受診券にしたところ、受診率をキープすることができている。当事業をきっかけに歯科医院に受診した市民についてはその歯科医院をかりつけ歯科医とし、今後も定期的に受診するよう今後もその重要性について柏歯科医師会と連携を図りながら、周知啓発を実施していく。	歯周病検診マニュアルに準じた検診に+αした柏市バージョンで実施しているが、本事業をスクリーニングと位置づけ、国のマニュアルに準じた内容で検診を簡素化していくことについては柏市の歯科保健事業全体の見直し等を踏まえ、柏歯科医師会と協議を重ね、決定していく。					
												H30			R元	R2	R3	R4	
						全体					32.9%	34.3%			36.1%	37.0%	34.9%		
						30歳					30.2%	31.8%			37.9%	36.8%	37.2%		
						40歳					35.3%	37.7%			33.6%	34.7%	34.9%		
						50歳					35.6%	32.5%			34.9%	37.7%	34.5%		
						60歳					28.9%	33.9%			38.9%	39.6%	33.2%		
						かしわ歯科相談室利用者数													
											H30	R元			R2	R3	R4		
											75人	60人			38人	65人	85人		
健康医療部 健康増進課	かしわ歯科 相談室 (* )	歯・口腔の健康に関して、歯科医師・歯科衛生士が個別の相談に応じ、必要な指導及び助言を行う。	柏歯科医師会	①なし ②なし	歯・口腔の健康に関する不安の軽減	○	○	○	○	○	○	関係課で実施している乳幼児対象の事業が中止されていることに伴い、例年より乳幼児の来所者数が増加した。歯科医師による口腔内診察と助言、歯科衛生士による歯みがき指導等に役割分担をし、実施することができた。成年期以降のかたについては治療内容の相談が多く、専門的な治療内容を理解できず、どう選択すればよいかわからず、来所するケースが多くみられた。各歯科医院でのわかりやすい説明等が必要。	地域にある歯科医院での患者へのインフォームドコンセントについては柏歯科医師会を通して、その徹底に努めていただくよう協力を仰いでいく。						



所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4							
健康医療部 健康政策課 地域包括支援課	柏フレイル 予防プロジェクト2025	「フレイル(虚弱)」という 概念を新たに取り入れ、 市民、関係団体、学識経 験者、市による「推進委 員会」を設置・運営しな がら、健康づくり事業の 効果的な運動と地域を 基盤とした市民主体の活 動を推進	医師会、歯科 医師会、薬剤 師会、東京大 学、ふるさと 協議会、社会 福祉協議会、 民生委員児 童委員、柏市 民健康づくり 推進員、ス ポーツ推進委 員、東葛北部 栄養士会、リ ハビリテー ション連絡 会、地域包括 支援センター など	①第一生命、介 護事業者、イオ ン、JR東日本、 日立、フィットネ ス振興会、ダン ロップスポー ツウエルネス、吉 田記念テニス研 修センター、ス マートフィット 100、ジェクサー ジムフラット ②さんち家、野 菜レストラン SHONAN、わと か食堂	市民の意識・行 動変容(栄養、 身体活動、社会 参加の促進)							推進委員会実施回数					かしわフレイル予防ポイント制度へス ポーツジム等のほかに飲食店も参 加、対象事業の拡大を図った。一方 で、ラジオ体操やストレッチ、グラ ウンドゴルフなどを中心に、ポイン トカードを持ってもらうことで、各 団体でも活動への参加者がさらに 増加した。フレイル予防の啓発とし ては、市民活動フェスタや柏の葉ウ ォーキングフェスタなどでの各種 イベント、イオンモール柏やモラ ージュ柏でポイントカード発行を行 うとともに、啓発品を配付した。ま た、積極的に活動する団体に対し る認定制度を創設し、ホームページ のフレイル予防に関するページを 認定団体の紹介を含めた形で整理 し、専用サイトを構築した。令和5 年度は、専用サイトや新たに作成 したパンフレットでフレイル予防に 取り組む団体を紹介し、引き続き、 市民が楽しみながら健康づくりに 取り組む環境整備を図るとともに、 フレイル予防の自分ごと化の推進 を目標とする。	フレイル予防によるまちづくり実 現のため、フレイル予防につながる 多様な活動・場への参加を促す。 そのために、かしわフレイル予防 ポイントの対象事業の拡大と、地 域における市民主体の活動の促 進を図り、フレイル予防の普及・ 啓発に努める。					
												H30	R元	R2	R3	R4			2回	1回	2回	2回	2回
健康医療部 地域包括支援課	フレイル予 防事業 (◇)	主に高齢者に対するフレ イル(介護予防)事業の うち、口腔機能や嚥下を テーマとしたプログラム について、歯科医師、歯 科衛生士、言語聴覚士 等が講座を行う。	柏歯科医師 会、柏歯科介 護センター、 柏市在宅リハ ビリテーショ ン連絡会、地 域包括支援セ ンターなど	①なし ②なし	市民の意識・行 動変容(口腔機 能の改善)							フレイル予防講座(口腔)の参加者数					令和4年度は感染対策に配慮しな がら徐々に講座を行い、参加する 市民が増えた結果となった。また フレイルチェックや、後期高齢者 の質問票で、フレイル傾向がある 方に対し、個別支援を実施した。 また、高齢者の保健事業と介護 予防の一体的実施の取り組みとし て、後期高齢者の健康診査受診 者のフレイルと疾病の関係性等 分析を行った。令和5年度はフレ イルチェック講座の中でも口腔の 講座紹介を行い、市民の社会参 加を促していく。ハイリスク者 支援として、フレイルチェックに よるフレイル傾向がある方に対し る個別支援を継続していく。また 光ケ丘をモデル地域とし、フレ イルチェックの実施や後期高齢 者の質問票を活用し、地域サロ ン団体に対して積極的なフレ イル予防を進めていく。オーラ ルフレイル対策として、口腔機 能低下のみられる者に対し、啓 発媒体の送付や講座の案内を 実施していく。	引き続き口腔に関する講座を 継続的に開催していく。柏市 歯科医師会の協力を得て、歯 科医院でのフレイル予防に関 するポスター掲示やイベント等 でのフレイル予防普及啓発にも 取り組んでいく。ハイリスク者 への集団支援(フレイルチェ ックや講座)、個別支援を継続 する。					
												H30	R元	R2	R3	R4			介護予防センター主催の教室				
						81人	65人	12人	32人	—	参加者数												
						394人	248人	中止	31人	170人	地域包括支援センター主催の教室												
						306人	74人	88人	50人	64人	フレイルハイリスク者への個別支援												
						—	—	12人	1人	4人													

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医療部 健康増進課	保健事業利用助成事業 (お口のクリーニング事業)	18歳以上の柏市国保被保険者と後期高齢者医療保険被保険者に対し、申請に基づき保健事業利用券を年間8枚交付(1枚1,000円相当)。18歳から38歳までの健康診査事業、はり等施術事業、お口のクリーニング事業、運動事業に利用できる。 お口のクリーニング事業は、歯みがきでは落とすきれない歯の付着物の除去や歯みがき指導等の健康相談、衛生指導を実施	柏歯科医師会	①なし ②なし	歯・口腔の健康状態の改善、生活習慣病の予防							お口のクリーニング利用者数					保健事業利用助成事業のメニューの一つとして、生活習慣病の入り口となる虫歯や歯周病の予防を目的として、歯磨きでは落とすきれない茶渋やタバコのヤニ、着色、入れ歯の汚れなどを専用機器を用いて磨き落としたり、歯みがき指導を実施している。 保健事業利用助成事業の利用者は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少したが、令和4年度は前年度よりも約13%増加している。  ●令和5年度の取り組み 定期的に歯科医に繋げ、口腔の健康管理に活用していただくよう事業の周知を図る。	継続実施していく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												1,459人	1,524人	1,405人	1,505人	1,698人		

## 7. 糖尿病

(1)若い世代からの糖尿病の発症予防と重症化予防																								
①糖尿病の指摘を受けた人の割合の減少																								
②メタボリックシンドローム[内臓脂肪症候群]の該当者及び予備群該当者の割合(40歳以上)の減少																								
③ヘモグロビンA1cが6.1%(NGSP値6.5%)以上の人の割合の減少																								
④じん臓機能障害による身体障害者手帳1級所持者数の減少																								
⑤糖尿病医療費(国民健康保険 1月あたりの総点数)の減少																								
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部 業	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性										
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期													
健康医療部 健康増進課	柏市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導(*)	<p>&lt;特定健康診査&gt; 40歳以上の柏市国保加入者を対象に、生活習慣病予防を目的とした健診を実施。</p> <p>&lt;特定保健指導&gt; 特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、3か月以上の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏市医師会</li> <li>・ちば県民保健予防財団</li> <li>・人間ドック、脳ドック実施医療機関</li> <li>・JA(ちば東葛、東葛ふたば、いちかわ)</li> <li>・千葉県厚生農業共同組合連合会</li> <li>・沼南商工会</li> <li>・柏商工会議所</li> <li>・千葉県国保連合会</li> </ul>	①なし ②なし	生活習慣病の発症及び重症化の予防							特定健康診査受診率(法定報告)	<p>①受診勧奨事業 メタボリックシンドローム該当者及び予備群が年々増加していることに対し、特定健康診査の更なる実施率の向上が必要であることから、医療レセプトと情報技術(IT)を活用したグループ分けをし、それぞれのグループにナッジ理論に基づいた勧奨通知を送付。2回受診勧奨通知を送付。その内、29.3%に特定健康診査の受診を確認。</p> <p>②生活習慣病治療中断者への適正受診勧奨事業 過去5年遡り糖尿病の治療中断者に対し生活習慣病重症化予防のため、医療機関受診が必要な糖尿病の未受診者や、治療中断者に対する受診勧奨を71人に通知し、11人の受診再開を確認。</p> <p>③糖尿病性腎症重症化予防事業 人工透析導入の抑制を目的に、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を令和4年度も継続。地域のかかりつけ医や専門医等との連携のもと、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を7回実施。具体的には、柏市医師会に推薦された2医療機関に委託し、身体測定、血圧測定、血液及び尿検査、健康講座(医師、管理栄養士、理学療法士)、面接、6ヶ月後の血液及び尿検査や面接を実施。</p> <p>④プレ特定健康診査 若い世代からの健診の習慣化を図ることで、生活習慣病の早期発見・早期治療につなげることを目的に、39歳を対象に「プレ特定健康診査」を継続。受診者数は113人。生活習慣の改善を要する方 人に対し、保健指導を実施。</p> <p>⑤特定保健指導の取組強化 試行的に予約なしの保健指導の受け入れ、事前連絡なしの訪問指導を実施。保健指導に繋がりにくい方への取組として効果的であった。(予約なしの保健指導6人、連絡なしの訪問指導39人)</p> <p>●令和5年度の取り組み 事業を継続する。予約なしの訪問保健指導は効果があるため通常実施とする。</p>	「柏市国民健康保険3期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第4期特定健診等実施計画」の健康課題を踏まえた取組を実施する。										
												H30			R元	R2	R3	R4						
																				42.5%	46.8%	42.3%	43.9%	11月1日以降確定
																				特定保健指導実施率(法定報告)				
																				29.0%	30.0%	23.3%	18.3%	同上
																				メタボリックシンドローム該当者の割合(法定報告)				
																				男性 28.4%	29.3%	32.8%	30.9%	同上
																				女性 8.9%	9.5%	10.6%	10.1%	同上
																				メタボリックシンドローム予備群の割合(法定報告)				
																				男性 18.0%	17.1%	17.1%	17.9%	同上
												女性 6.1%	6.1%	6.3%	6.2%	同上								
												ヘモグロビンA1cが6.1%(NGSP値で6.5%)以上の人の割合(年度報告)												
												8.1%	8.7%	9.4%	9.1%	9.4%								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性						
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期				高齢期					
健康医療部 健康増進課	国保 保健事業利用費助成事業 (18歳から38歳までの健康診査) (*)	18歳以上の柏市国保被保険者に対し、申請に基づき保健事業利用券を年間8枚交付(1枚1,000円相当)。18歳から38歳の健診事業、はり等施術事業、お口のクリーニング事業、運動事業に利用できる。18歳から38歳までの健康診査事業は26年度からの新規事業。受診希望者に対し受診券を発行し、特定健診と同様の健診を実施する。 令和3年度から39歳を対象とした「プレ特定健康診査」が開始したことから、名称を「18歳から38歳までの健康診査」に変更。	柏市医師会	①なし ②なし	被保険者の健康の保持増進 若い世代からの生活習慣病予防							18歳から38歳までの健康診査実施状況 H30 R元 R2 R3 R4 受診券発行数 479人 469人 593人 506人 646人 受診者数 291人 310人 315人 295人 346人	①18歳から38歳までの健康診査 健診受診の習慣化及び生活習慣病の早期発見、早期治療による重症化の予防を目的に実施。 令和3年度は受診率の向上を図るため、受診勧奨通知を2回送付。1回目は、受診券を申請されていない30歳、35歳～38歳までの方を対象に、8月に受診勧奨通知を送付した。2回目は受診券発行者のうち、受診の確認ができていない方を対象に12月に受診勧奨通知を送付している。 勸奨通知にQRコードを掲載し、保健事業利用券の申し込みにロゴフォームを導入したことで、受診券発行数と受診者数が増加している。 ●令和5年度の取り組み 「18歳から38歳までの健康診査」においては、引き続き受診勧奨を行い、健診の結果、生活習慣の改善を要する方に対し、保健指導を実施する。	「柏市国民健康保険3期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第4期特定健診等実施計画」の健康課題を踏まえた取組を実施する。					
健康医療部 健康増進課	柏市健康診査 (無保険者) (*)	40歳以上で、無保険の生活保護受給者を対象に、特定健診と同内容の健診を指定医療機関にて実施。 74歳以下の対象者に個別通知、75歳以上は申し込み制。	生活支援課 柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候群の予防、罹患している病状の安定や重症化予防への行動が取れるようにする。							受診者数 H30 R元 R2 R3 R4 321人 365人 394人 384人 440人	令和4年度の受診者数は、令和3年度から増加。 令和3年度より、40～74歳は申し込み制から全数通知となり、受診率は14.5%であった。 75歳以上は申込み制を継続。185人(12.8%)が申込みをし、126人(68.1%)が受診した。 受診率向上のため、生活支援課ケースワーカーからの受診勧奨を継続実施していく。	生活支援課との協働により、受診率向上に努める。					
健康医療部 健康増進課	柏市地域栄養相談システム (*)	生活習慣病等で治療中の市民が、かかりつけ医の紹介により、市内の病院で管理栄養士の栄養指導が受けられるシステム。かかりつけ医での治療及び適切な食事療法を継続し、生活習慣病の重症化予防を図る。	柏市医師会 病院栄養士協議会(柏地区)	①なし ②なし	内臓脂肪症候群の予防、罹患している病状の安定や重症化予防への行動が取れるようにする。							利用者数(延べ数) H30 R元 R2 R3 R4 184人 186人 141人 131人 107人	・市内産婦人科へのアンケート結果から、当システムを利用希望する3機関に当システムの説明資料を送付した。 ・当システム紹介リーフレットを作成し、医療機関に送付した。 ・当システムの利用促進のため、使用している様式の改訂を行った。 令和5年度は改定した様式について、実施医療機関に意見を聞き、修正する。また、当システムの効果や課題について把握し、事業評価を行う。	栄養指導を必要としている人に対して、適切な食事療法を行えるよう、引き続きシステムの周知や改善を図る。					

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (*)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。							啓発実施者数(全数)	図書館及びかしわインフォメーションセンターにて、展示による啓発活動を実施した。今年度より、出前講座の受付を再開。健康づくりに関するパンフレットの作成予定。	出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。 また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。				
						H30	R元	R2	R3	R4	2,657人	4,973人			2,833人	3,882人	4,765人	
						依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)						95人			38人	中止	中止	中止
						※H30年度～健康増進課として計上												
健康医療部 健康増進課	地域・職域連携推進事業 (*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①第一生命保険株式会社、明治安田生命保険相互会社 ②十余二工業団地連絡協議会	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加							メール配信登録事業所数	令和4年度は例年通り、参集型で協議会を開催し、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また講習会を2年ぶりに開催し、「メンタルヘルスと健康経営」をテーマに50社63名が参加した。また協議会委員の意見を基に、「立ち上がれ！座りすぎ改善計画」をテーマに、民間企業に講師を依頼してオンライン研修会を開催し、ライブ配信で10名が参加、アーカイブ配信で33回再生された。 令和5年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また関係機関との共催による講習会やオンライン研修会については継続して開催し、地域保健と職域保健が連携して図りながら進めていく。そして健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康に関する実態調査を実施することで、市の健康課題を明確化し、今後の取組について計画していく。	健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康づくりに関する実態調査の結果を基に、関係機関と連携しながら計画的に事業を推進する。協議会では事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。				
						H30	R元	R2	R3	R4	47社	60社			62社	61社	68社	
						講習会参加事業所数						52社			43社	中止	中止	50社

(2) 定期的な健康診査の受診

⑥ 柏市国民健康保険特定健康診査の受診率(法定報告)の増加

⑦ 柏市国民健康保険特定保健指導の実施率(法定報告)の増加

⑧ 糖尿病の指摘を受けたが、放置している人の割合の減少

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新 規連携機関・部 室	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
健康医 療部 健康増 進課	柏市国民健康 保険特定 健康診査・ 特定保健指 導 (* )	<p>&lt;特定健康診査&gt; 40歳以上の柏市国保加入者を対象に、生活習慣病予防を目的とした健診を実施。</p> <p>&lt;特定保健指導&gt; 特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、3か月以上の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。</p>	<p>柏市医師会 ちば県民保健 予防財団 人間ドック、脳 ドック実施医療 機関 JA(ちば東葛、 東葛ふたば、い ちかわ) 千葉県厚生農 業共同組合連 合会 沼南商工会 柏商工会議所 千葉県国保連 合会</p>	①なし ②なし	生活習慣病の 発症及び重症 化の予防							特定健康診査受診率(法定報告)	<p>①受診勧奨事業 メタボリックシンドローム該当者及び予備群が年々増加していることに対し、特定健診の更なる実施率の向上が必要であることから、医療レセプトと情報技術(IT)を活用したグループ分けをし、ナッジ理論に基づいた勧奨通知を送付。2回受診勧奨通知を送付。その内、29.3%に特定健康診査の受診を確認。</p> <p>②生活習慣病治療中断者への適正受診勧奨事業 過去5年遡り糖尿病の治療中断者に対し生活習慣病重症化予防のため、医療機関受診が必要な糖尿病の未受診者や、治療中断者に対する受診勧奨を71人に通知し、11人の受診再開を確認。</p> <p>③糖尿病性腎症重症化予防事業 人工透析導入の抑制を目的に、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を令和4年度も継続。地域のかかりつけ医や専門医等との連携のもと、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を7回実施。具体的には、柏市医師会に推薦された2医療機関に委託し、身体測定、血圧測定、血液及び尿検査、健康講座(医師、管理栄養士、理学療法士)、面接、6ヶ月後の血液及び尿検査や面接を実施。</p> <p>④プレ特定健康診査 若い世代からの健診の習慣化を図ることで、生活習慣病の早期発見・早期治療につなげることを目的に、39歳を対象に「プレ特定健康診査」を継続。受診者数は113人。生活習慣の改善を要する方6人に対し、保健指導を実施。</p> <p>⑤特定保健指導の取組強化 試行的に予約なしの保健指導の受け入れ、事前連絡なしの訪問指導を実施。保健指導に繋がりにくい方への取組として効果的であった。(予約なしの保健指導6人、連絡なしの訪問指導39人) ●令和5年度の取り組み 事業を継続する。予約なしの訪問保健指導は効果があるため通常実施とする。</p>	「柏市国民健康保険3期保健事業実施計画(データヘルス計画)」,「柏市国民健康保険第4期特定健診等実施計画」の健康課題を踏まえた取組を実施する。
												H30 R元 R2 R3 R4		
												42.5% 46.8% 42.3% 43.9% 11月1日以降確定		
												特定保健指導実施率(法定報告)		
												29.0% 30.0% 23.3% 18.3% 同上		
												メタボリックシンドローム該当者の割合 (法定報告)		
												男性 28.4% 29.3% 32.8% 30.9% 同上		
												女性 8.9% 9.5% 10.6% 10.1% 同上		
												メタボリックシンドローム予備群の割合 (法定報告)		
												男性 18.0% 17.1% 17.1% 17.9% 同上		
						女性 6.1% 6.1% 6.3% 6.2% 同上								
						ヘモグロビンA1cが6.1%(NGSP値で 6.5%以上の人の割合(年度報告))								
						8.1% 8.7% 9.4% 9.1% 9.4%								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性						
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期									
健康医療部 健康増進課	国保 保健事業利用費 助成事業 (18歳から38歳までの健康診査) (*)	18歳以上の柏市国保被保険者に対し、申請に基づき保健事業利用券を年間8枚交付(1枚1,000円相当)。18歳から38歳の健診事業、はり等施術事業、お口のクリーニング事業、運動事業に利用できる。18歳から38歳までの健康診査事業は26年度からの新規事業。受診希望者に対し受診券を発行し、特定健診と同様の健診を実施する。	柏市医師会	①なし ②なし	被保険者の健康の保持増進 若い世代からの生活習慣病予防							18歳から38歳の健康診査実施状況	①18歳から38歳までの健康診査 健診受診の習慣化及び生活習慣病の早期発見、早期治療による重症化の予防を目的に実施。 令和4年度は受診率の向上を図るため、受診勧奨通知を2回送付。1回目は、受診券を申請されていない30歳、35歳～38歳までの方を対象に、8月に受診勧奨通知を送付した。2回目は受診券発行者のうち、受診の確認ができていない方を対象に12月に受診勧奨通知を送付している。 勧奨通知にQRコードを掲載し、保健事業利用券の申し込みにもロゴフォームを導入したことで、受診券発行数と受診者数が増加している。  ●令和5年度の取り組み 「18歳から38歳までの健康診査」においては、引き続き、受診勧奨を行い、健診の結果、生活習慣の改善を要する方に対し、保健指導を実施する。	「柏市国民健康保険3期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第4期特定健診等実施計画」の健康課題を踏まえた取組を実施する。						
												H30			R元	R2	R3	R4		
												受診券発行数								
												479人			469人	593人	506人	646人		
												受診者数								
						291人	310人	315人	295人	346人										
健康医療部 健康増進課	柏市健康診査 (無保険者) (*)	40歳以上で、無保険の生活保護受給者を対象に、特定健診と同内容の健診を指定医療機関にて実施。 対象者に個別通知、希望者は申し込み。	生活支援課 柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候群の予防、罹患している病状の安定や重症化予防への行動が取れるようにする。							受診者数	令和4年度の受診者数は、令和3年度から増加。 令和3年度より、40～74歳は申し込み制から全数通知となり、受診率は14.5%であった。 75歳以上は申込制を継続。185人(12.8%)が申込をし、126人(68.1%)が受診した。 受診率向上のため、生活支援課ケースワーカーからの受診勧奨を継続実施していく。	生活支援課との協働により、受診率向上に努める。						
												H30			R元	R2	R3	R4		
												321人			365人	394人	384人	440人		

8. 循環器疾患

(1)若い世代からの循環器疾患の発症予防と重症化予防																																
①循環器疾患の指摘を受けた人の割合の減少																																
②循環器疾患による死亡者数の減少																																
③循環器疾患医療費(国民健康保険 1月あたりの総点数)の減少																																
④LDLコレステロールが140mg/dl以上の人の割合(40歳以上)の減少																																
⑤収縮期血圧が140mmHg以上の人の割合(40歳以上)の減少																																
⑥拡張期血圧が90mmHg以上の人の割合(40歳以上)の減少																																
⑦【再掲】メタボリックシンドローム[内臓脂肪症候群]の該当者及び予備群該当者の割合(40歳以上)の減少																																
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性																		
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期																					
健康医療部 健康増進課	柏市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導(*)	<p>&lt;特定健康診査&gt; 40歳以上の柏市国保加入者を対象に、生活習慣病予防を目的とした健診を実施。</p> <p>&lt;特定保健指導&gt; 特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、3か以上の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。</p>	<p>柏市医師会 ちば県民保健 予防財団 人間ドック、脳 ドック実施医 療機関 JA(ちば東 葛、東葛ふた ば、いちか わ) 千葉県厚生 農業共同組 合連合会 沼南商会 柏商工会議 所 千葉県国保 連合会</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>生活習慣病の 発症及び重症 化の予防</p>							<p>特定健康診査受診率(法定報告)</p> <table border="1"> <tr> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> <tr> <td>42.5%</td> <td>46.8%</td> <td>42.3%</td> <td>43.9%</td> <td>11月1日 以降確定</td> </tr> </table>	H30	R元	R2	R3	R4	42.5%	46.8%	42.3%	43.9%	11月1日 以降確定	<p>①重症化予防事業 特定健康診査を受診した結果、重症化リスクの高い医療機関の未受診者に対して、通知及び電話による受診勧奨と保健指導を行うことにより、医療機関に結びつけるとともに心血管疾患等の重症化への移行を予防する。 受診勧奨により医療機関につながった割合は17.8%であった。 (281人中50人) ②特定保健指導における電子申請、遠隔面談、積極的支援を受け、改善状況に応じたインセンティブを付与。 ・電子申請29人 ・遠隔面談11人 ・インセンティブの提供27人 (令和5年6月6日現在)。 ●令和5年度も上記事業を継続する。</p>	<p>「柏市国民健康保険3期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第4期特定健診等実施計画」の健康課題を踏まえた取組を実施する。</p>								
						H30	R元	R2	R3	R4																						
						42.5%	46.8%	42.3%	43.9%	11月1日 以降確定																						
											<p>特定保健指導実施率(法定報告)</p> <table border="1"> <tr> <th>29.0%</th> <th>30.0%</th> <th>23.3%</th> <th>18.3%</th> <th>同上</th> </tr> </table>	29.0%	30.0%	23.3%	18.3%	同上																
						29.0%	30.0%	23.3%	18.3%	同上																						
						LDLコレステロールが140mg/dl以上の人の割合(40歳以上)(年度報告)						<table border="1"> <tr> <th>全体</th> <th>30.6%</th> <th>31.7%</th> <th>32.7%</th> <th>31.6%</th> <th>28.3%</th> </tr> <tr> <th>男性</th> <th>25.7%</th> <th>26.8%</th> <th>27.9%</th> <th>27.0%</th> <th>25.0%</th> </tr> <tr> <th>女性</th> <th>33.9%</th> <th>34.9%</th> <th>35.9%</th> <th>34.7%</th> <th>30.6%</th> </tr> </table>	全体	30.6%	31.7%	32.7%	31.6%	28.3%	男性	25.7%	26.8%	27.9%			27.0%	25.0%	女性	33.9%	34.9%	35.9%	34.7%	30.6%
						全体	30.6%	31.7%	32.7%	31.6%	28.3%																					
						男性	25.7%	26.8%	27.9%	27.0%	25.0%																					
						女性	33.9%	34.9%	35.9%	34.7%	30.6%																					
						収縮期血圧が140mmHg以上の人の割合(40歳以上)(年度報告)						<table border="1"> <tr> <th>全体</th> <th>22.8%</th> <th>23.1%</th> <th>27.0%</th> <th>26.2%</th> <th>25.8%</th> </tr> <tr> <th>男性</th> <th>25.5%</th> <th>25.3%</th> <th>28.8%</th> <th>27.8%</th> <th>27.2%</th> </tr> <tr> <th>女性</th> <th>21.1%</th> <th>21.6%</th> <th>25.9%</th> <th>25.3%</th> <th>24.9%</th> </tr> </table>	全体	22.8%	23.1%	27.0%	26.2%	25.8%	男性	25.5%	25.3%	28.8%			27.8%	27.2%	女性	21.1%	21.6%	25.9%	25.3%	24.9%
						全体	22.8%	23.1%	27.0%	26.2%	25.8%																					
						男性	25.5%	25.3%	28.8%	27.8%	27.2%																					
						女性	21.1%	21.6%	25.9%	25.3%	24.9%																					
拡張期血圧が90mmHg以上の人の割合(40歳以上)(年度報告)						<table border="1"> <tr> <th>全体</th> <th>10.8%</th> <th>11.3%</th> <th>12.8%</th> <th>11.9%</th> <th>12.6%</th> </tr> <tr> <th>男性</th> <th>14.3%</th> <th>14.6%</th> <th>15.9%</th> <th>14.9%</th> <th>15.5%</th> </tr> <tr> <th>女性</th> <th>8.4%</th> <th>9.1%</th> <th>10.6%</th> <th>10.0%</th> <th>10.6%</th> </tr> </table>	全体	10.8%	11.3%	12.8%	11.9%	12.6%	男性	14.3%	14.6%	15.9%	14.9%	15.5%	女性	8.4%	9.1%	10.6%	10.0%	10.6%								
全体	10.8%	11.3%	12.8%	11.9%	12.6%																											
男性	14.3%	14.6%	15.9%	14.9%	15.5%																											
女性	8.4%	9.1%	10.6%	10.0%	10.6%																											



所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
健康医療部 健康増進課	国保 保健 事業利用費 助成事業 (18歳から38歳までの 健康診査) (*)	18歳以上の柏市国保被 保険者に対し、申請に基 づき保健事業利用券を 年間8枚交付(1枚1,0 00円相当)。18歳から3 8歳までの健康診査事 業、はり等施術事業、お 口のクリーニング事業、 運動事業に利用できる。 18歳から38歳の健診 事業は26年度からの新 規事業。受診希望者 に対し受診券を発行し、特 定健診と同様の健診を 実施する。 令和3年度から39歳を 対象とした「ブレ特定健 康診査」が開始したこと から、名称を「18歳から 38歳までの健康診査」 に変更。	柏市医師会	①なし ②なし	被保険者の健 康の保持増進 若い世代からの 生活習慣病予 防							18歳から38歳までの健康診査実施状況	①18歳から38歳までの健康診査 健診受診の習慣化及び生活習慣病の早 期発見、早期治療による重症化の予防 を目的に実施。 令和4年度は受診率の向上を図るため、 受診勧奨通知を2回送付。1回目は、受 診券を申請されていない30歳、35歳～ 38歳までの方を対象に、8月に受診勧 奨通知を送付した。2回目は受診券発行 者のうち、受診の確認ができていない方 を対象に12月に受診勧奨通知を送付し ている。 勧奨通知にQRコードを掲載し、保健事 業利用券の申し込みにロゴフォームを導 入したことで、受診券発行数と受診者数 が増加している。  ●令和5年度の取り組み 「18歳から38歳までの健康診査」にお いては、引き続き、受診勧奨を行い、健 診の結果、生活習慣の改善を要する方 に対し、保健指導を実施する。	「柏市国民健康保険3 期保健事業実施計画 (データヘルス計画)」 、「柏市国民健康保険第 4期特定健診等実施計 画」の健康課題を踏ま えた取組を実施する。					
												H30			R元	R2	R3	R4	
												受診券発行数							
												479人			469人	593人	506人	646人	
						受診者数													
						291人	310人	315人	295人	346人									
健康医療部 健康増進課	柏市健康診 査 (無保険者) (*)	40歳以上で、無保険の 生活保護受給者を対象 に、特定健診と同内容の 健診を指定医療機関に て実施。 対象者に個別通知、希 望者は申し込み。	生活支援課 柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候 群の予防、罹患 している病状の 安定や重症化 予防への行動 が取れるように する。							受診者数	令和4年度の受診者数は、令和3年 度から増加。 令和3年度より、40～74歳は申し込み 制から全数通知となり、受診率は 14.5%であった。 75歳以上は申込制を継続。185人 (12.8%)が申込をし、126人(68.1%) が受診した。 受診率向上のため、生活支援課 ケースワーカーからの受診勧奨を継 続実施していく。	生活支援課との協働に より、受診率向上に努 める。					
												H30			R元	R2	R3	R4	
												321人			365人	394人	384人	440人	

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H30	R元	R2	R3	R4		
健康医療部 健康増進課	柏市地域栄養相談システム (*)	生活習慣病等で治療中の市民が、かかりつけ医の紹介により、市内の病院で管理栄養士の栄養指導が受けられるシステム。かかりつけ医での治療及び適切な食事療法を継続し、生活習慣病の重症化予防を図る。	柏市医師会 病院栄養士協議会(柏地区)	①なし ②なし	内臓脂肪症候群の予防、罹患している病状の安定や重症化予防への行動が取れるようにする。							利用者数(延べ数)					・市内産婦人科へのアンケート結果から、当システムを利用希望する3機関に当システムの説明資料を送付した。 ・当システム紹介リーフレットを作成し、医療機関に送付した。 ・当システムの利用促進のため、使用している様式の改訂を行った。  令和5年度は改定した様式について、実施医療機関に意見を聞き、修正する。また、当システムの効果や課題について把握し、事業評価を行う。	栄養指導を必要としている人に対して、適切な食事療法を行えるよう、引き続きシステムの周知や改善を図る。
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (*)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。							啓発実施者数(全数)					図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。 令和5年度より、出前講座の受付を再開。	出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。 また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。
												H30	R元	R2	R3	R4		
												2,657人	4,973人	2,833人	3,882人	4,765人		
												依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)						
												-	95人	中止	中止	中止		
												※H30年度～健康増進課として計上						

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
健康医 療部 健康増 進課	地域・職域 連携推進事 業(*)	柏地域・職域連携推進協 議会 事業所向けの健康情報 等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準 監督署 柏労働基準 協会 柏商工会議 所 柏市沼南商 工会 代表企業(2 社) 東葛北部地 域産業保健セ ンター 全国健康保 険協会千葉 支部 柏市医師会 柏歯科医師 会	①第一生命保険 株式会社、明治 安田生命保険相 互会社 ②十余二工業団 地連絡協議会	働く世代の生活 習慣病予防とこ ころの健康づく りの推進  社員の健康づく りに積極的に取 り組む事業所の 増加							メール配信登録事業所数					令和4年度は例年通り、参集型で協 議会を開催し、各関係団体のかたと 情報共有・交換を実施することがで きた。また講習会を2年ぶりに開催 し、「メンタルヘルスと健康経営」を テーマに50社63名が参加した。ま た協議会委員の意見を基に、「立ち 上げ！座りすぎ改善計画」をテー マに、民間企業に講師を依頼してオ ンライン研修会を開催し、ライブ配信 で10名が参加、アーカイブ配信で3 3回再生された。 令和5年度はハイブリッドでの協議 会の開催を予定しており、各委員の 状況に合わせた会議参加への環境 整備を進めていく。また関係機関と の共催による講習会やオンライン研 修会については継続して開催し、地 域保健と職域保健が連携を図りなが ら進めていく。そして健診結果等の データ分析及び市内事業所への健 康に関する実態調査を実施すること で、市の健康課題を明確化し、今後 の取組について計画していく。	健診結果等のデータ分 析及び市内事業所へ の健康づくりに関する 実態調査の結果を基 に、関係機関と連携し ながら計画的に事業を 推進する。協議会では 事務局の一方的な情 報発信にならないよう お互いにディスカッシ ョンを心掛け、働く世 代の生活習慣病予防など の健康づくりを継続的 に取り組んでいく。					
												H30	R元	R2	R3	R4							
												47社	60社	62社	61社	68社			講習会参加事業所数				
												52社	43社	中止	中止	50社							

(2) 定期的な健康診査の受診  
 ⑧【再掲】柏市国民健康保険特定健康診査の受診率(法定報告)の増加  
 ⑨【再掲】柏市国民健康保険特定保健指導の実施率(法定報告)の増加  
 ⑩循環器疾患の指摘を受けたが、放置している人の割合の減少

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医 療部 健康増 進課	柏市国民健康 保険特定 健康診査・ 特定保健指 導 (* )	<特定健康診査> 40歳以上の柏市国保加 入者を対象に、生活習慣 病予防を目的とした健診 を実施。  <特定保健指導> 特定健診の結果よりメタ ボリックシンドロームのリ スクのある対象者を抽出 し、3か月以上の生活習 慣改善のための特定保 健指導を実施。	・柏市医師会 ・ちば県民保 健予防財団 ・人間ドック、 脳ドック実施 医療機関 ・JA(ちば東 葛, 東葛ふた ば, いちか わ) ・千葉県厚生 農業共同組 合連合会 ・沼南商工会 ・柏商工会議 所 ・千葉県国保 連合会	①なし ②なし	生活習慣病の 発症及び重症 化の予防							特定健康診査受診率(法定報告) H30 R元 R2 R3 R4 42.5% 46.8% 42.3% 43.9% 11月1日 以降確定	①受診勧奨事業 メタボリックシンドローム該当者及び予備 群が年々増加していることに対し、特定健診 の更なる実施率の向上が必要であることか ら、医療レセプトと情報技術(IT)を活用した グループ分けをシナジ理論に基づいた勧 奨通知を送付。2回受診勧奨通知を送付。 その内29.3%に特定健康診査の受診を確 認。 ②重症化予防事業 特定健康診査を受診した結果、重症化リス クの高い医療機関の未受診者に対して、通 知及び電話による受診勧奨、保健指導を行 うことにより、医療機関に結びつけるともに 心血管疾患等の重症化への移行を予防す るため、令和4年度も継続している。受診勧 奨通知により医療機関につながった割合は 17.7%であった。(281人中50人) ③特定保健指導の取組強化 試行的に予約なしの保健指導の受け入れ、 事前連絡なしの訪問指導を実施。保健指導 に繋がり難い方への取組として効果的 であった。(予約なしの保健指導6人、事前連 絡なしの訪問指導39人)  ●令和5年度の取り組み 上記事業を継続し実施する。	「柏市国民健康保険3 期保健事業実施計画 (データヘルス計画)」, 「柏市国民健康保険第 4期特定健診等実施計 画」の健康課題を踏ま えた取組を実施する。				
						特定保健指導実施率(法定報告)						29.0%			30.0%	23.3%	18.3%	同上
						LDLコレステロールが140mg/dl以上の人の 割合(40歳以上)(年度報告)						全体 30.6%			31.7%	32.7%	31.6%	28.3%
												男性 25.7%			26.8%	27.9%	27.0%	25.0%
												女性 33.9%			34.9%	35.9%	34.7%	30.6%
						収縮期血圧が140mmHg以上の人の割合 (40歳以上)(年度報告)						全体 22.8%			23.1%	27.0%	26.2%	25.8%
												男性 25.5%			25.3%	28.8%	27.8%	27.2%
												女性 21.1%			21.6%	25.9%	25.3%	24.9%
						拡張期血圧が90mmHg以上の人の割合 (40歳以上)(年度報告)						全体 10.8%			11.3%	12.8%	11.9%	12.6%
												男性 14.3%			14.6%	15.9%	14.9%	15.5%
												女性 8.4%			9.1%	10.6%	10.0%	10.6%

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性									
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
健康医療部 健康増進課	国保 保健 事業利用費 助成事業 (18歳から3 8歳までの 健康診査) (*)	18歳以上の柏市国保被 保険者に対し、申請に基 づき保健事業利用券を 年間8枚交付(1枚1,0 00円相当)。18歳から3 8歳までの健康診査事 業、はり等施術事業、お 口のクリーニング事業、 運動事業に利用できる。 18歳から38歳までの健 康診査事業は26年度か らの新規事業。受診希望 者に対し受診券を発行 し、特定健診と同様の健 診を実施する。 令和3年度から39歳を 対象とした「ブレ特定健 康診査」が開始したこと から、名称を「18歳から 38歳までの健康診査」 に変更。	柏市医師会	①なし ②なし	被保険者の健康 の保持増進 若い世代からの 生活習慣病予 防							18歳から38歳までの健康診査実施状況	①18歳から38歳までの健康診査 健診受診の習慣化及び生活習慣病の早 期発見、早期治療による重症化の予防 を目的に実施。 令和4年度は受診率の向上を図るため、 受診勧奨通知を2回送付。1回目は、受 診券を申請されていない30歳、35歳～ 38歳までの方を対象に、8月に受診勧 奨通知を送付した。2回目は受診券発行 者のうち、受診の確認ができていない方 を対象に12月に受診勧奨通知を送付し ている。 勧奨通知にQRコードを掲載し、保健事 業利用券の申し込みにロゴフォームを導 入したことで、受診券発行数と受診者数 が増加している。  ●令和5年度の取り組み 「18歳から38歳までの健康診査」にお いては、引き続き、受診勧奨を行い、健 診の結果、生活習慣の改善を要する方 に対し、保健指導を実施する。	「柏市国民健康保険3 期保健事業実施計画 (データヘルス計画)」、 「柏市国民健康保険第 4期特定健診等実施計 画」の健康課題を踏ま えた取組を実施する。									
												H30			R元	R2	R3	R4					
												受診券発行数					479人	469人	593人	506人	646人		
												受診者数					291人	310人	315人	295人	346人		
健康医療部 健康増進課	柏市健康診 査 (無保険者) (*)	40歳以上で、無保険の 生活保護受給者を対象 に、特定健診と同内容の 健診を指定医療機関に て実施。 対象者に個別通知、希 望者は申し込み。	生活支援課 柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候 群の予防、罹患 している病状の 安定や重症化 予防への行動 が取れるよう にする。								受診者数	令和4年度の受診者数は、令和3年 度から増加。 令和3年度より、40～74歳は申し込 み制から全数通知となり、受診率は 14.5%であった。 75歳以上は申込制を継続。185人 (12.8%)が申込をし、126人(68.1%) が受診した。 受診率向上のため、生活支援課 ケースワーカーからの受診勧奨を継 続実施していく。	生活支援課との協働に より、受診率向上に努 める。								
													H30			R元	R2	R3	R4				
																	321人	365人	394人	384人	440人		

9. がん

(1)がんの発症を防ぐための生活習慣等に関する知識の普及																		
①がんによる死亡者数の減少																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
健康医療部 健康政策課	がん対策	・がん対策検討会議(議員及び庁内関係部署、がん診療連携拠点病院)の開催 ・議会への事業報告	庁内関係部局 がん診療連携拠点病院 医師会など	①なし ②なし	「柏市がん対策基本条例」に基づき関係機関との連携のもと、がん対策を効果的かつ効率的に推進	○	○	○	○	○	○	がん対策検討会議実施状況					・がんに関する健康課題についての直接的な取り組みではないが、がん対策検討会議を実施。柏市におけるがん対策について、がん対策関係部署とがん診療拠点病院及び千葉県がん診療連携協力病院間にて情報及び課題を共有した。	第4期がん対策推進基本計画や国・県の動向を踏まえた上で、柏市全体としての取り組みを関係機関で共有・検討しながら、がん対策を推進していく。
						H30					R元	R2	R3	R4				
						2回					2回	1回	1回	1回				
健康医療部 健康増進課 (保健予防課はR3実績にあり、要確認)	肝炎ウイルス検査	柏市民で、これまで肝炎ウイルス検査を受けたことがなく、他で検査を受ける機会のないかた、感染を心配するリスク行為があったかたを対象に検査を実施。	柏市医師会	①なし ②なし	肝炎ウイルス感染を早期に発見し、適切な検査・治療へつなぐことで、肝硬変や肝がんへの進行による重症化を防ぐ	○	○	○	○	○	肝炎ウイルス検査実施数					令和3年度より、市の広報紙、ホームページにて周知・啓発を実施。また、平成28年度より陽性者フォローアップ事業を開始し、検査結果が陽性となった方へ精密検査受診勧奨を行い、受診や治療へ結びついているかどうかを確認している。令和4年度の陽性者はB型が7名、C型が6名となっている。  ①肝炎ウイルス検査を広く周知するため、ホームページ、広報を利用する。 ②平成30年度で、平成26年度からの5歳刻みへの通知が一巡し、令和元年度から未受診者へ対して2回目の発送となっている。一巡目未受診者への個別勧奨を継続し、未受診者を減少させる。	継続して対象者への個別勧奨及び陽性者フォローアップ事業を継続していく。	
						H30					R元	R2	R3	R4				
						8,194人					4,535人	4,492人	4,393人	4,919人				

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性								
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期											
健康医療部 健康増進課	新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業(*)	<p>特定の年齢のかたに無料クーポン、検診手帳(啓発用)を送付し、該当するがん検診について、無料で受診することができる。対象となるがん検診は、乳、子宮頸がん検診(大腸はH27年度まで実施)。</p> <p>個別の受診勧奨(新規登録)・再勧奨(がん検診登録者の一部)を実施。</p> <p>精密検査未受診者に対する受診勧奨通知及び特定の年齢に達する対象者への受診勧奨を行う。</p>	柏市医師会 ちば県民保健 予防財団 医療センター	①なし ②なし	がん検診を受けるきっかけとして、今まで受診したことがない人が受診することで、受診率向上に寄与する。							クーポン利用率	<p>・無料クーポン配布 対象者に検診手帳(リーフレット)、無料クーポン券、検診票等の送付。 対象者がクーポン券を利用してがん検診を受診する場合の自己負担分の費用の全額助成。</p> <p>・個別の受診勧奨・再勧奨 令和5年より、20歳女性へ送付する受診勧奨通知内容を、子宮頸がん検診に特化した内容に改編。 また、対象者に50歳国保・65歳を追加。</p> <p>・要精密検査者への受診勧奨、受診確認</p>	<p>検診手帳、無料クーポン券等を送付し、がん検診の受診促進、早期発見につなげ、がんによる死亡者の減少を図る。</p> <p>精密検査未受診者の受診率の向上及び精密検査受診率の向上。</p>								
						H30					R元	R2			R3	R4	乳がん					
						22.8%	23.3%	20.4%	31.2%	24.8%	子宮頸がん											
						4.2%	4.0%	6.4%	8.2%	5.2%												
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業(*)	<p>イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ、がん検診登録勧奨、がん予防等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。</p>	<p>庁内関係各課 各種団体及び企業関係ふるさと協議会 柏市医師会</p>	①なし ②なし	<p>・幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。</p> <p>・がん検診新規登録者数の増加</p>							啓発実施者数(全数)	<p>図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。 令和5年度より、出前講座の受付を再開。</p>	<p>出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。</p>								
						H30					R元	R2			R3	R4	啓発実施者数(がん)					
						2,657人	4,973人	2,833人	3,882人	4,765人	2,003人	2,409人			1,500人	1,486人	1,942人	健康教育参加者数(講師:保健師)				
						13,782人	16,909人	中止	中止	中止	がん検診新規登録者数(延人数)											
						23,084人	19,139人	13,308人	20,563人	23,083人												

(2)がん検診の受診																							
②胃がん検診受診率の増加																							
③大腸がん検診受診率の増加																							
④子宮がん検診受診率の増加																							
⑤乳がん検診受診率の増加																							
⑥結核・肺がん検診受診率の増加																							
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性									
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
健康医療部 健康増進課	がん検診	「がん検診重点健康教育及びがん検診の実施のための指針」(厚生労働省)に基づき、胃、大腸、結核・肺、乳、子宮の各がん検診の実施。	柏市医師会 ちば県民保健 予防財団 医療センター	①なし ②なし	各がんの早期発見、早期治療に結びつける。							がん検診受診率					<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度に新型コロナウイルス蔓延による受診控えの影響が考えられる受診率低下があったが、令和3年度より胃がん、大腸がん、乳がん、結核・肺がんについて受診率が上昇し、令和4年度は令和1年度の新型コロナウイルス蔓延以前の受診率が回復している。</li> <li>集団検診会場では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため関係機関(柏市医療センター、ちば県民保健予防財団)とともに感染症対策を講じた上で実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診率向上のための取り組みとして個別の登録勧奨、未受診者の再勧奨、キャンペーン等の啓発活動を進めていく。</li> <li>子宮頸がんの好発年齢である20~30代の受診者数増加に向けた取り組みを重点的に行う。</li> </ul>					
																H30			R元	R2	R3	R4	
																			8.0%	10.7%	8.0%	9.6%	11.8%
																			大腸がん検診				
																			15.3%	14.7%	13.3%	14.4%	14.6%
																			子宮頸がん検診				
																			26.1%	24.9%	23.7%	23.4%	24.4%
																			乳がん検診				
																			27.8%	35.2%	30.4%	32.7%	40.6%
																			結核・肺がん検診				
											14.2%	13.7%	12.1%	13.5%	15.9%								
健康医療部 健康増進課	新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業(*)	特定の年齢のかたに無料クーポン、検診手帳(啓発用)を送付し、該当するがん検診について、無料で受診することができる。対象となるがん検診は、乳、子宮頸がん検診(大腸はH27年度まで実施)。  個別の受診勧奨(新規登録)・再勧奨(がん検診登録者の一部)を実施。  精密検査未受診者に対する受診勧奨通知及び特定の年齢に達する対象者への受診勧奨を行う。	柏市医師会 ちば県民保健 予防財団 医療センター	①なし ②なし	がん検診を受けるきっかけとして、今まで受診したことがない人が受診することで、受診率向上に寄与する。							クーポン利用率					<ul style="list-style-type: none"> <li>無料クーポン配布 対象者に検診手帳(リーフレット)、無料クーポン券、検診票等の送付。 対象者がクーポン券を利用してがん検診を受診する場合の自己負担分の費用の全額助成。</li> <li>個別の受診勧奨・再勧奨 令和5年より、20歳女性へ送付する受診勧奨通知内容を、子宮頸がん検診に特化した内容に改編。また、対象者に50歳国保・65歳を追加。</li> <li>要精密検査者への受診勧奨、受診確認</li> </ul>	検診手帳、無料クーポン券等を送付し、がん検診の受診促進、早期発見につなげ、がんによる死亡者の減少を図る。  精密検査未受診者の受診率の向上及び精密検査受診率の向上。					
																			乳がん				
																			22.8%	23.3%	20.4%	31.2%	24.8%
																			子宮頸がん				
											4.2%	4.0%	6.4%	8.2%	5.2%								



所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和4年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和5年度の取り組みについて	令和6年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
健康医療部 地域保健課	啓発事業 (◇)	イベント等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。	○	○	○	○	○	○	啓発実施者数(全数) H30 R元 R2 R3 R4 758人 651人 中止 37人 1,133人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和5年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。	年間計画に基づいた啓発を実施する。
健康医療部 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (*)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ、がん検診登録奨励、がん予防等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係 ふるさと協議会 柏市医師会	①なし ②なし	・幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。 ・がん検診新規登録者数の増加							啓発実施者数(全数) H30 R元 R2 R3 R4 2,657人 4,973人 2,833人 3,882人 4,765人 啓発実施者数(がん) 2,003人 2,409人 1,500人 1,486人 1,942人 健康教育参加者数(講師・保健師) 13,782人 16,909人 中止 中止 中止 がん検診新規登録者数(延人数) 23,084人 19,139人 13,308人 20,563人 23,083人	図書館、沼南支所ロビー、イトーヨーカドー柏店、新春マラソン及び吉田邸で実施されたイベントにて、ポスター掲示やリーフレット等の配布による啓発活動を実施した。令和4年度に健康づくりに関するパンフレットを作成した。令和5年度より、出前講座の受付を再開。	出前講座等の対面の研修を通じた啓発教育の実施。また、効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討を行い、実施につなげていく。
健康医療部 健康増進課	地域・職域連携推進事業 (*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①第一生命保険株式会社、明治安田生命保険相互会社 ②十余二工業団地連絡協議会	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進 社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加							メール配信登録事業所数 H30 R元 R2 R3 R4 47社 60社 62社 61社 68社 講習会参加事業所数 52社 43社 中止 中止 50社	令和4年度は例年通り、参集型で協議会を開催し、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また講習会を2年ぶりに開催し、「メンタルヘルスと健康経営」をテーマに50社63名が参加した。また協議会委員の意見を基に、「立ち上げ！座りすぎ改善計画」をテーマに、民間企業に講師を依頼してオンライン研修会を開催し、ライブ配信で10名が参加、アーカイブ配信で33回再生された。令和5年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また関係機関との共催による講習会やオンライン研修会については継続して開催し、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。そして健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康に関する実態調査を実施することで、市の健康課題を明確化し、今後の取組について計画していく。	健診結果等のデータ分析及び市内事業所への健康づくりに関する実態調査の結果を基に、関係機関と連携しながら計画的に事業を推進する。協議会では事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。